

1号機PCV内部調査にかかる 干渉物切断作業の状況

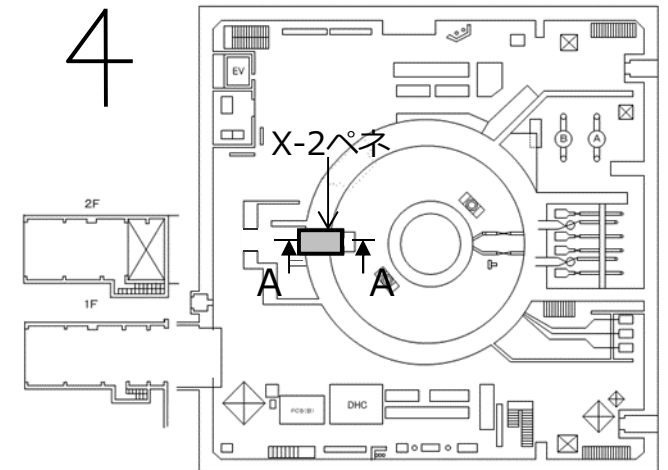
2020年8月28日



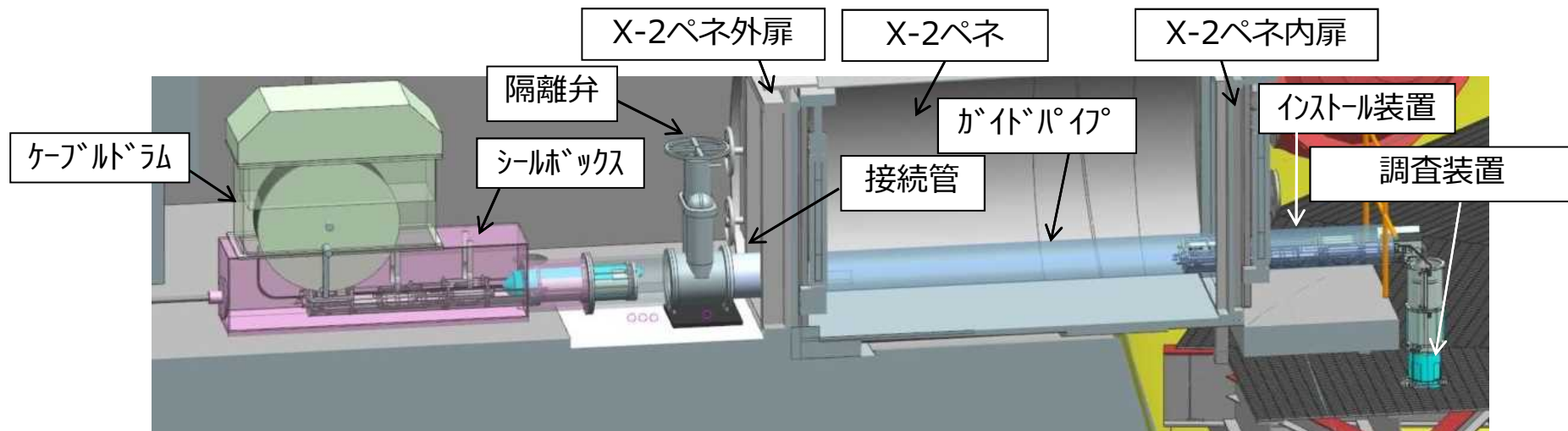
東京電力ホールディングス株式会社

1. X-2ペネからのPCV内部調査装置投入に向けた作業

- 1号機原子炉格納容器（以下、PCV）内部調査は、X-2ペネトレーション（以下、ペネ）からPCV内に投入する計画
- 調査装置投入に向け、X-2ペネ（所員用エアロック）の外扉と内扉の切削およびPCV内干渉物の切断等が必要
- 主な作業ステップは以下の通り
 - ① 隔離弁設置（3箇所）
 - ② 外扉切削（3箇所）
 - ③ 内扉切削（3箇所）
 - ④ PCV内干渉物切断
 - ⑤ ガイドパイプ設置（3箇所）



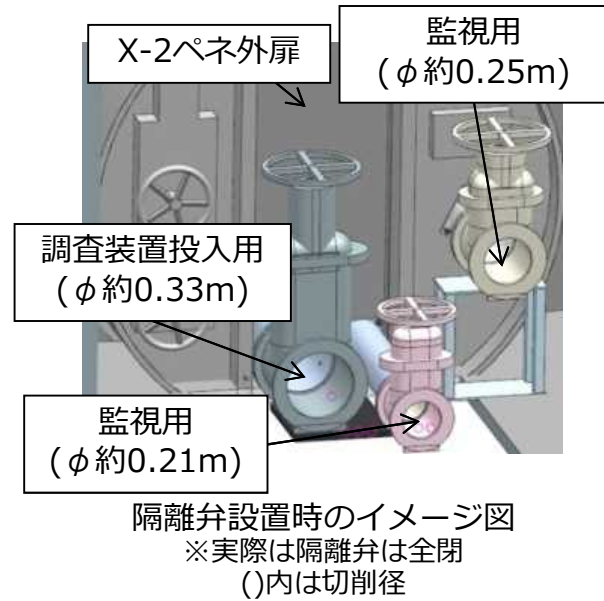
1号機原子炉建屋1階におけるX-2ペネの位置



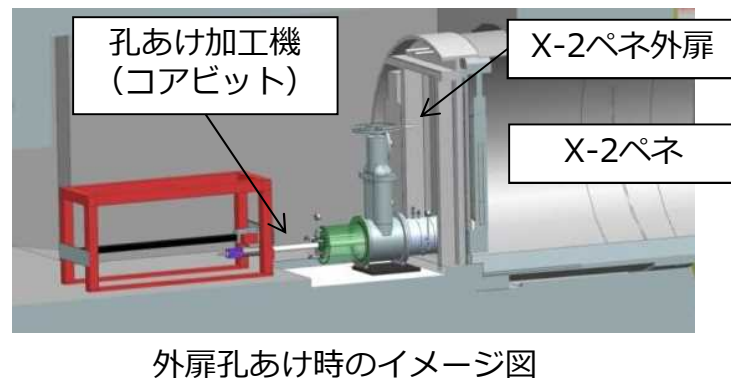
内部調査時のイメージ図 (A-A矢視)

2. PCV内部調査装置投入に向けた主な作業ステップ

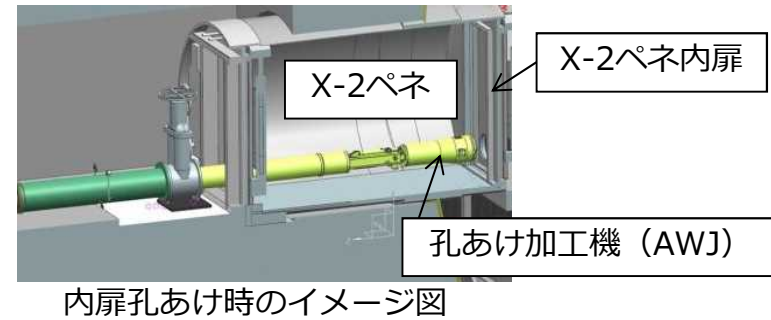
1. 隔離弁設置 (3箇所) 2019.5.10完了



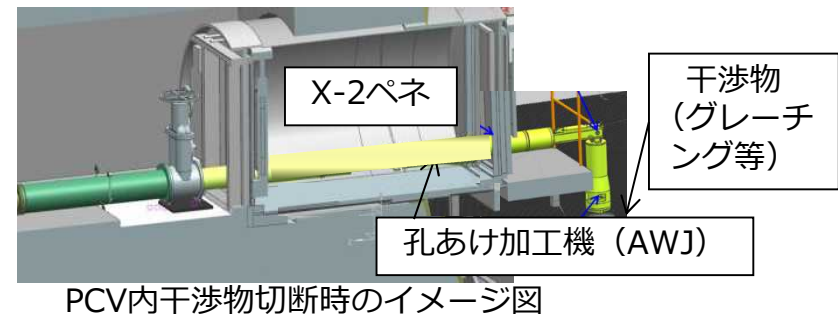
2. 外扉切削 (3箇所) 2019.5.23完了



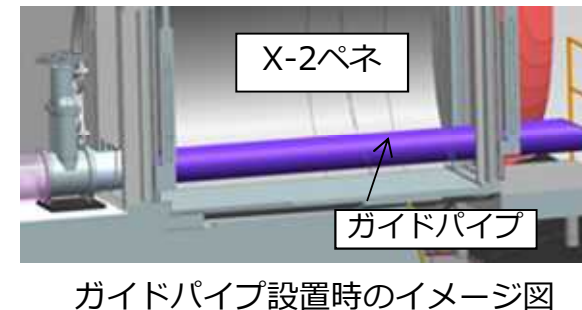
3. 内扉切削(AWJ) (3箇所) 2020.4.22完了



4. PCV内干渉物切断 実施中



5. ガイドパイプ設置 (3箇所)

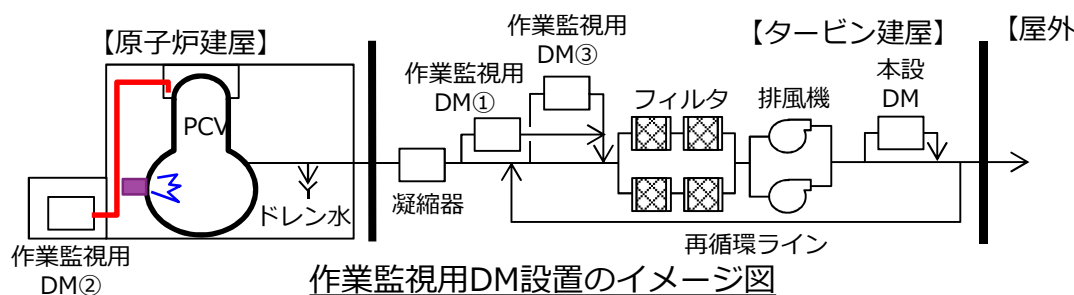


3. PCV内部調査装置投入に向けた作業状況

- PCV内部調査装置投入に向けた作業を2019年4月8日より着手しており、外扉の切削完了後、2019年6月4日にX-2ペネ内扉に、AWJ※¹にて孔（孔径約0.21m）を開ける作業中、PCV内のダスト濃度上昇を早期検知するためのダストモニタ（下記図の作業監視用DM①）の値が作業管理値($1.7 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$)※²に達したことを確認

※作業監視用DM①の下流側にダストを除去するフィルタがあり、フィルタの下流のダストモニタ（下記図の本設DM）には有意な変動はなく、環境への影響はないことを確認

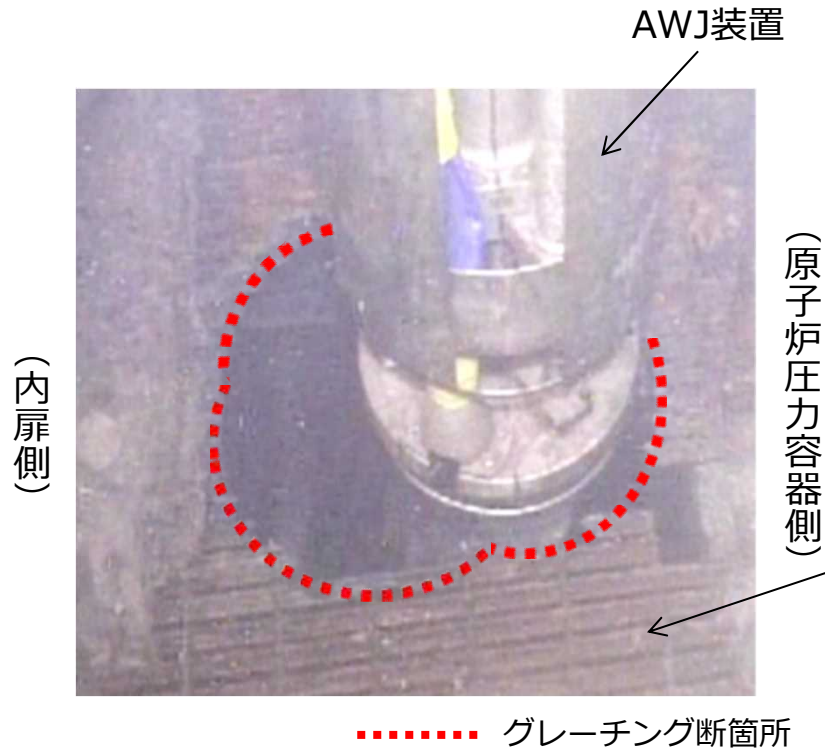
- その後、ダストモニタを増設し、ダスト濃度の監視を充実・継続しつつ、切削量を制限した上で、作業を実施し、内扉の切削が完了（2019年7月～2020年4月22日）
- 7月7日に発生したAWJ装置の不具合対策後に切断作業を再開し、グレーチング切断作業を8月25日に完了
- 8月26日にグレーチング下部鋼材切断作業前に作業用カメラ治具を設置したところ、PCV圧力の低下傾向を確認したことから、作業を中断し隔離弁を閉にすることでPCV圧力の復帰を確認した。不具合対策後、切断作業を再開する予定。なお、これによる建屋内作業エリアおよび敷地境界近傍ダストモニタ等への影響は確認されていない。



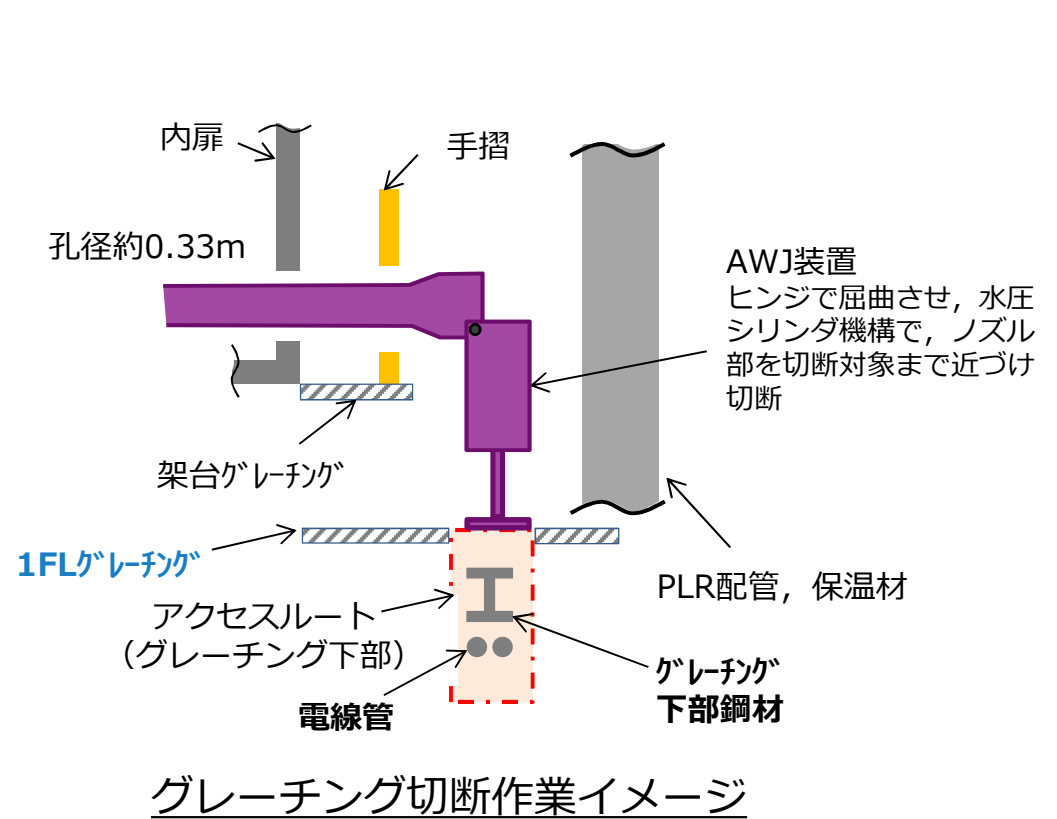
※1:高圧水を極細にした水流に研磨材を混合し切削性を向上させた孔あけ加工機(アブレイブウォータージェット)
 ※2:フィルタのダスト除去能力を考慮し、本設DM警報設定値の1/10以下に設定

- 作業監視用DM①：ガス管理設備のダスト濃度上昇の早期検知用
- 作業監視用DM②：PCV上蓋近傍のダスト濃度監視用（増設）
- 作業監視用DM③：ダスト濃度監視の連続性確保を目的とした、再循環希釈後のダスト濃度監視用（増設）
- 本設DM：フィルタでのダスト除去後のダスト濃度上昇の早期検知用

4. グレーチング切断状況



グレーチング切断後写真



5. 今後の予定

- 現在、8月26日の準備作業中に確認された不具合の原因について調査中。不具合対策後、グレーチング下部鋼材の切断作業を再開予定

作業項目		2020年度				
		6月	7月	8月	9月	10月以降
干渉物切断 作業等	PCV内 干渉物切断	手摺（縦部）切断※ ↓ グレーチング洗淨，段取り替え	↓ 不具合調査・対策 ↓ グレーチング切断	↓ 段取り替え	↓ グレーチング追加箇所（済） 不具合調査・対策 ↓ グレーチング下部鋼材，手摺（横部）切断 ↓ 段取り替え	↓ 電線管切断※
	ガイドパイ プ設置 （3箇所）					↓ ガイドパイプ挿入 ・片付け
1号PCV内部調査 （準備含む）						↓ 準備作業 （調査開始は2020年度下期）

※切断作業に洗淨作業を含む

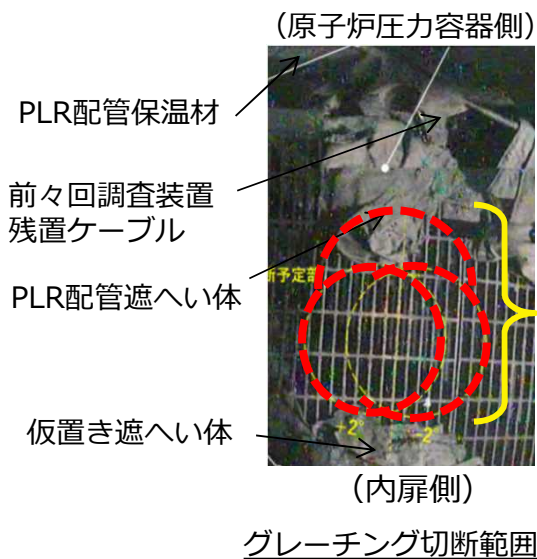
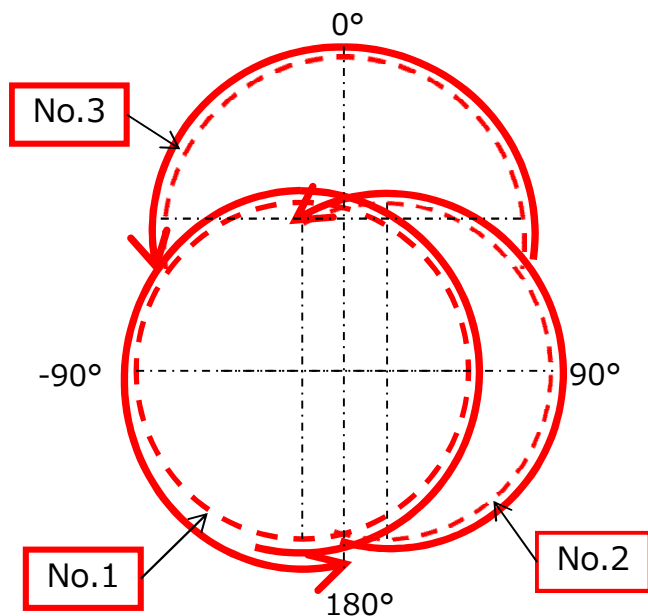
（注）各作業の実施時期については計画であり、現場作業の進捗状況によって時期は変更の可能性あり。

(参考) 切削作業 (グレーチング) の結果 (1/3)

No.	施工範囲 (実績)		作業監視用DM①の 最大ダスト濃度 [Bq/cm ³]	備考
	ノズル移動範囲	切削角度		
1 (8/2)	190°~(0°)~-190°	380°	9.7×10 ⁻³	
2 (8/3)	207°~90°~-22°	239°	4.0×10 ⁻³	※1
3 (8/25)	135°~(0°)~-135°	270°	4.2×10 ⁻³	※2

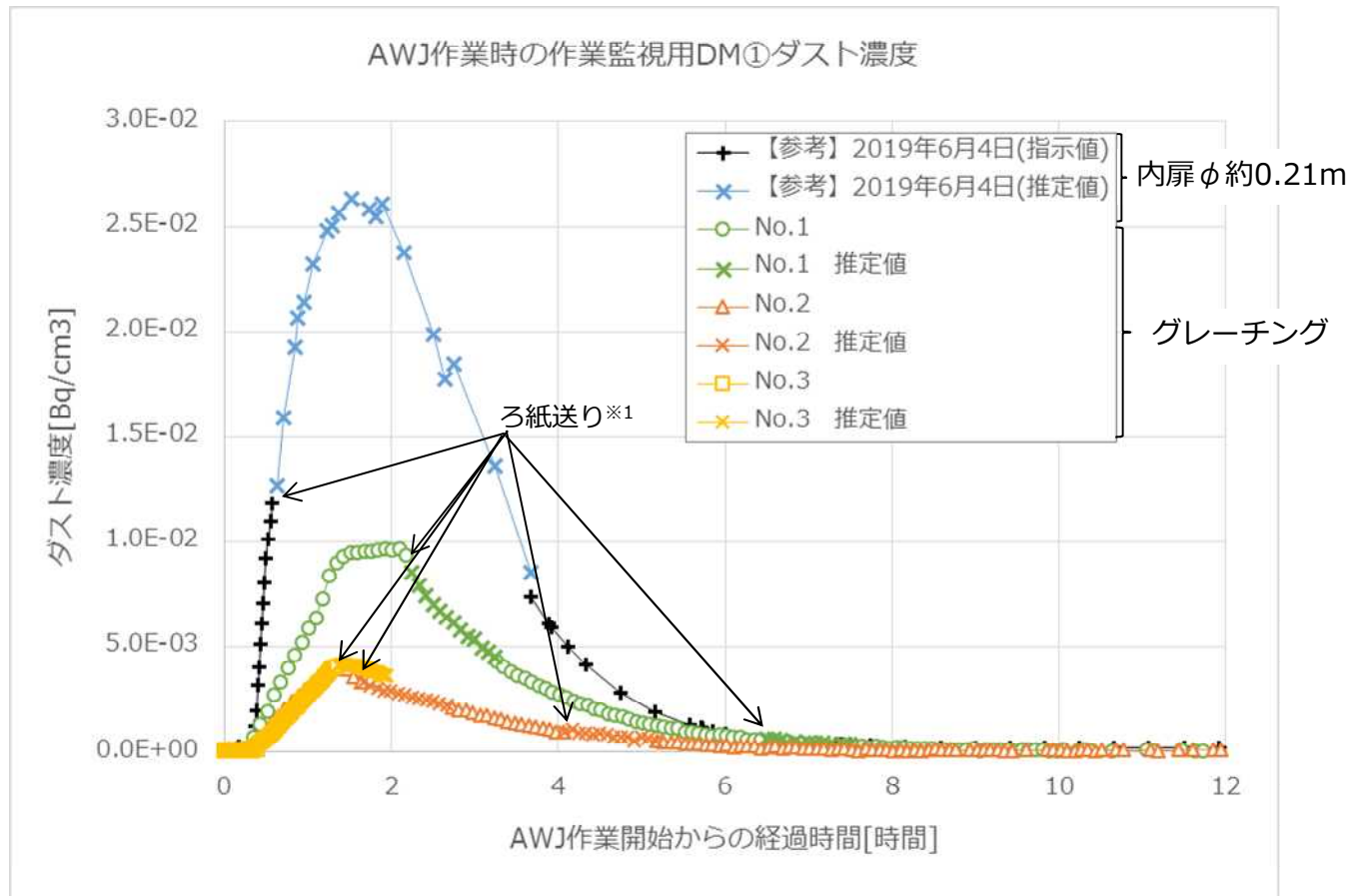
※1：切り残し1箇所について追加切断実施

※2：グレーチング下部にある電線管と水中ROVケーブルの干渉を回避するため、追加切断を実施

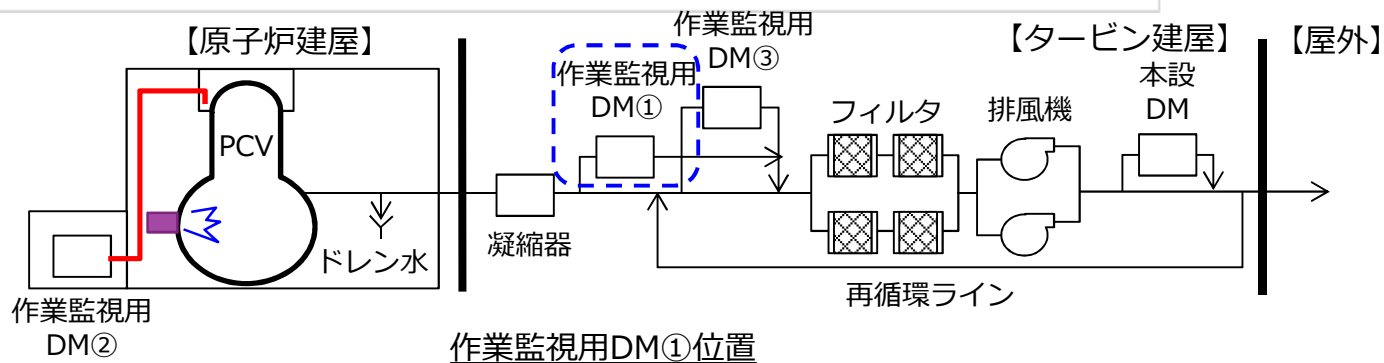


今後のPCV内部調査に用いる
水中ROV用インストール装置
とグレーチングの干渉を回避
するために複数箇所を切断

(参考) 切削作業 (グレーチング) の結果 (2/3)

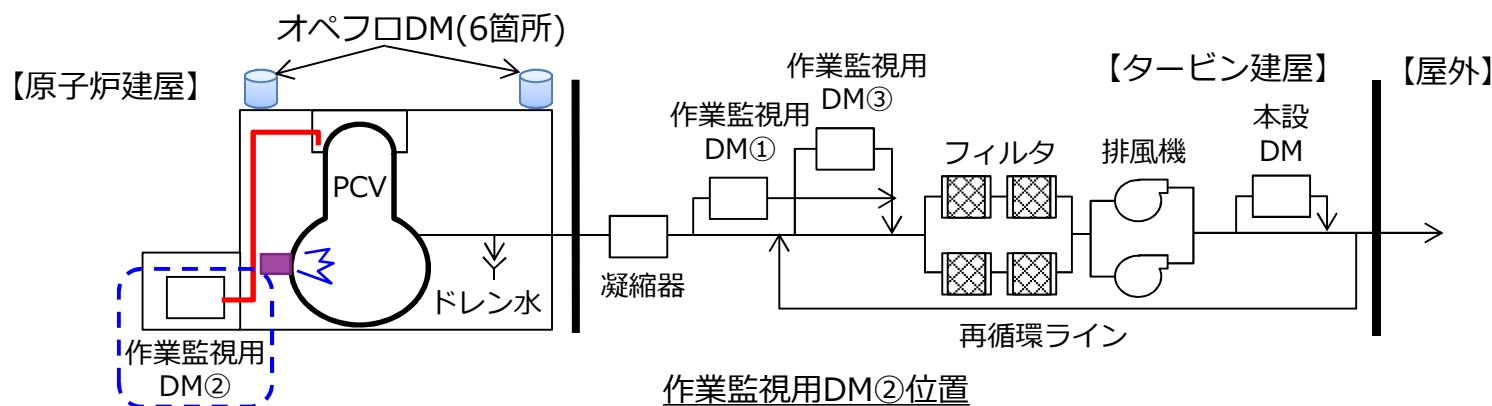


※1：ろ紙送りの理由：ろ紙を通過する流量が低下した場合や、またろ紙上の放射能濃度が高くなることで検出器が応答しきれない状況を未然に防ぎ、測定値の信頼性を担保するため、ろ紙送りが自動動作。ろ紙送り後はダスト濃度を正確に測定できないため、データから除外。

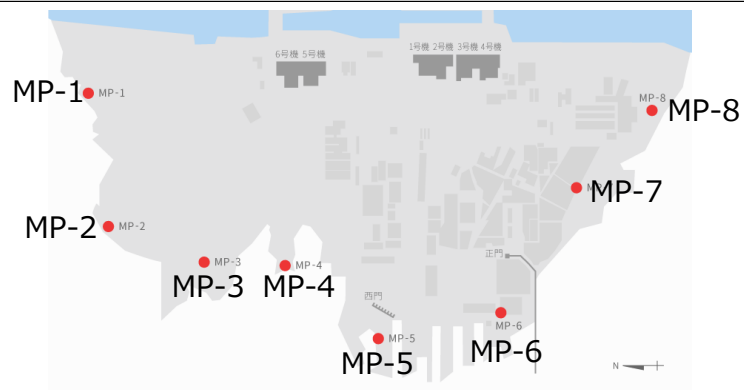
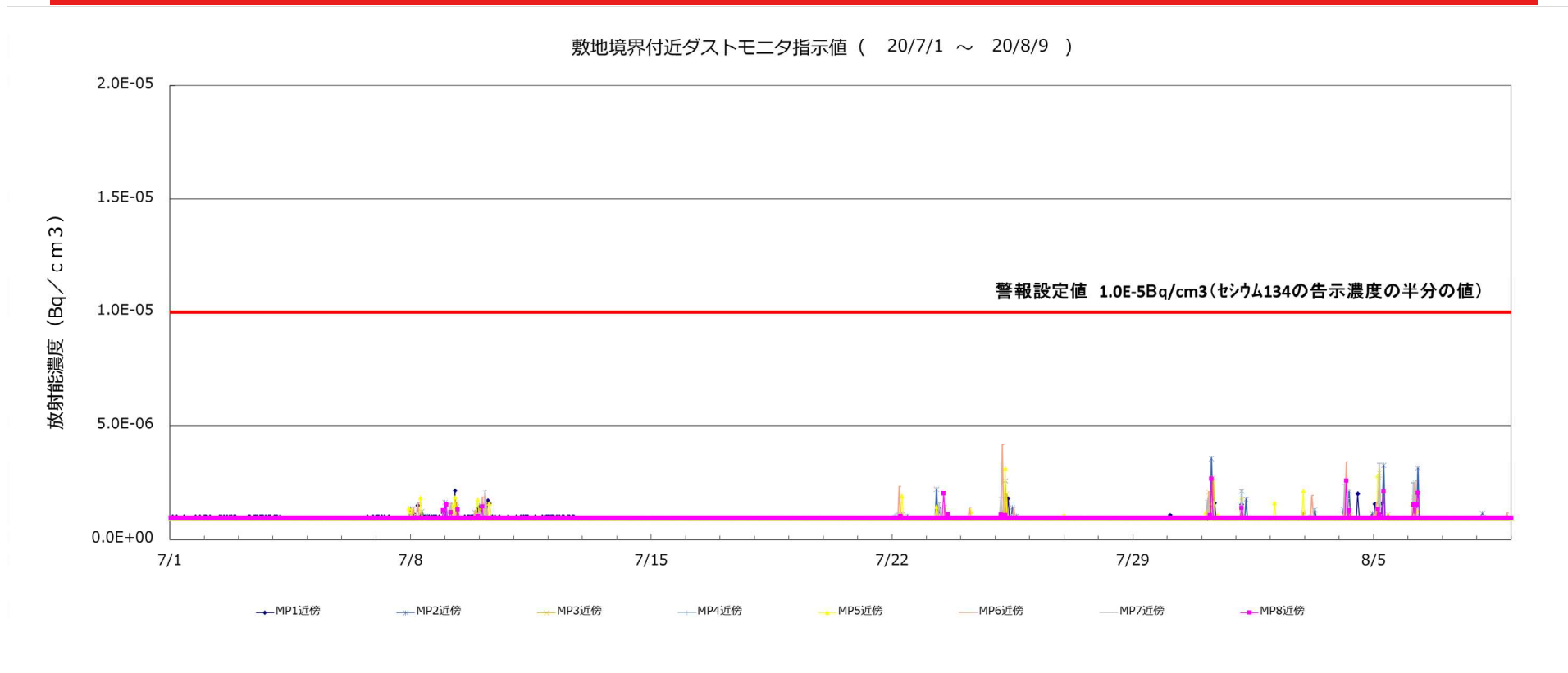


(参考) 切削作業 (グレーチング) の結果 (3/3)

- AWJ作業によるPCVヘッド近傍のダスト濃度は有意な変動は確認されていない。



(参考) 周辺環境等のモニタリング結果(1/2)



敷地境界近傍DM設置位置

1号機 ガレキ撤去作業時の ガレキ落下防止・緩和対策の進捗状況（FHM支保の設置）

2020/8/28

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

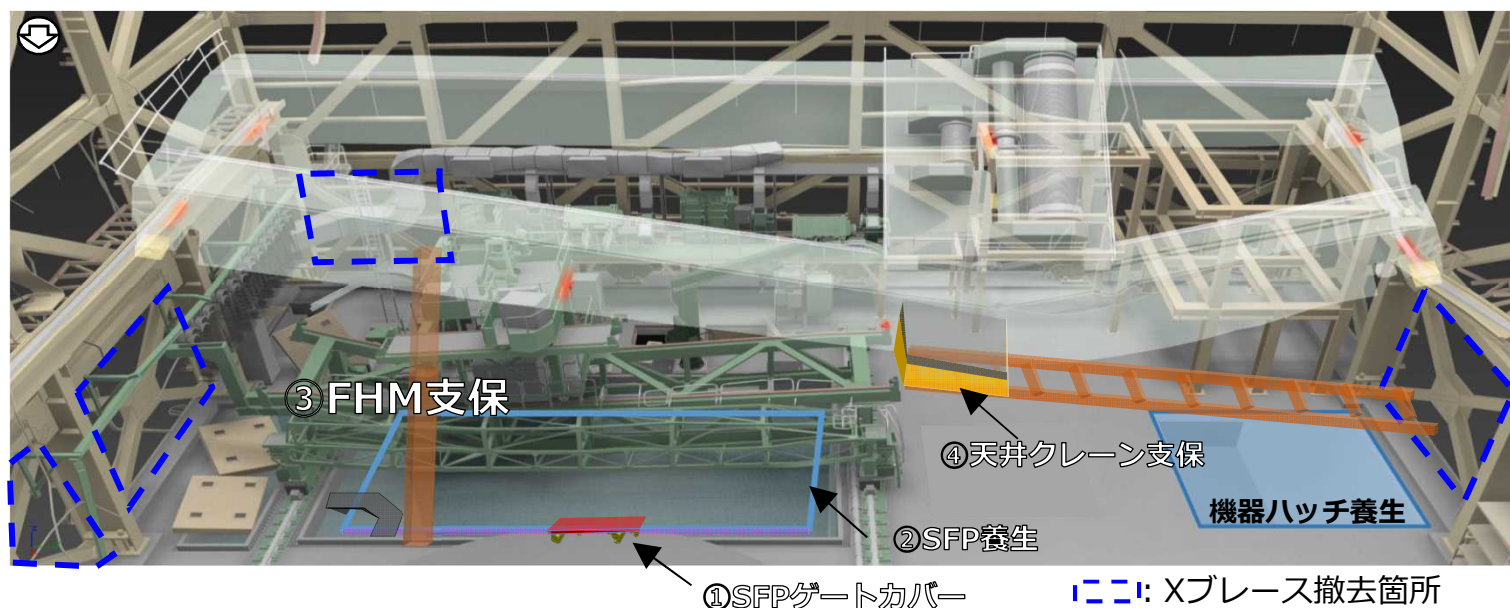
1. はじめに

- 南側崩落屋根等の撤去に際し、屋根鉄骨・ガレキ等が使用済燃料プール（以下、SFP）等へ落下するリスクを可能な限り低減するため、以下のガレキ落下防止・緩和対策※を実施する。
- この内、③燃料取扱機（以下FHM）支保の設置準備を9月より実施し、設置作業を10月から実施予定。

※ ①SFPゲートカバー（2020年3月設置完了）
➢ 屋根鉄骨・小ガレキ等がSFPゲート上に落下した際のSFPゲートのずれ・損傷による水位低下リスクを低減

②SFP養生（2020年6月設置完了）
➢ 屋根鉄骨・小ガレキ等がSFPに落下した際に燃料等の健全性に影響を与えるリスク低減

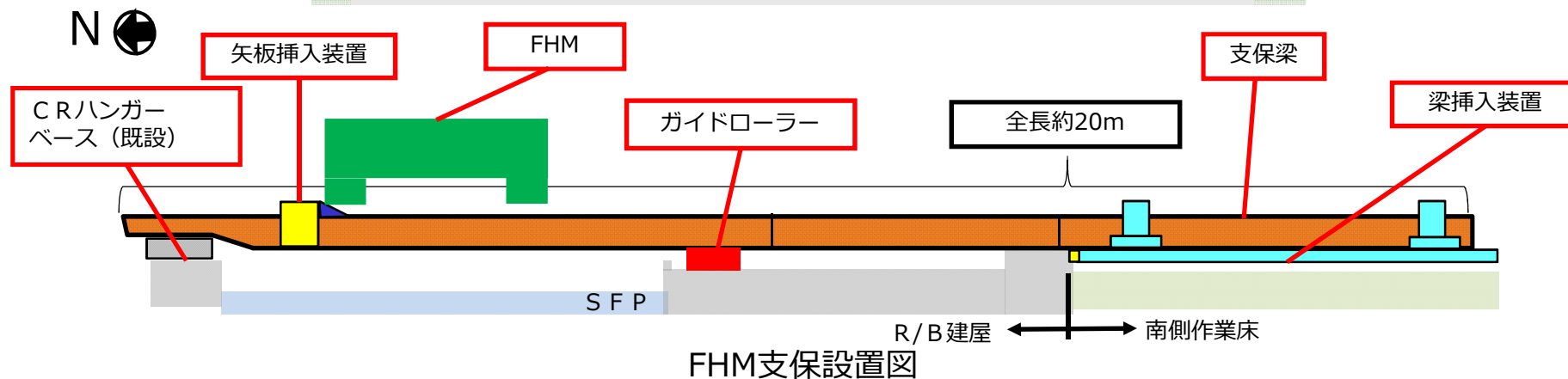
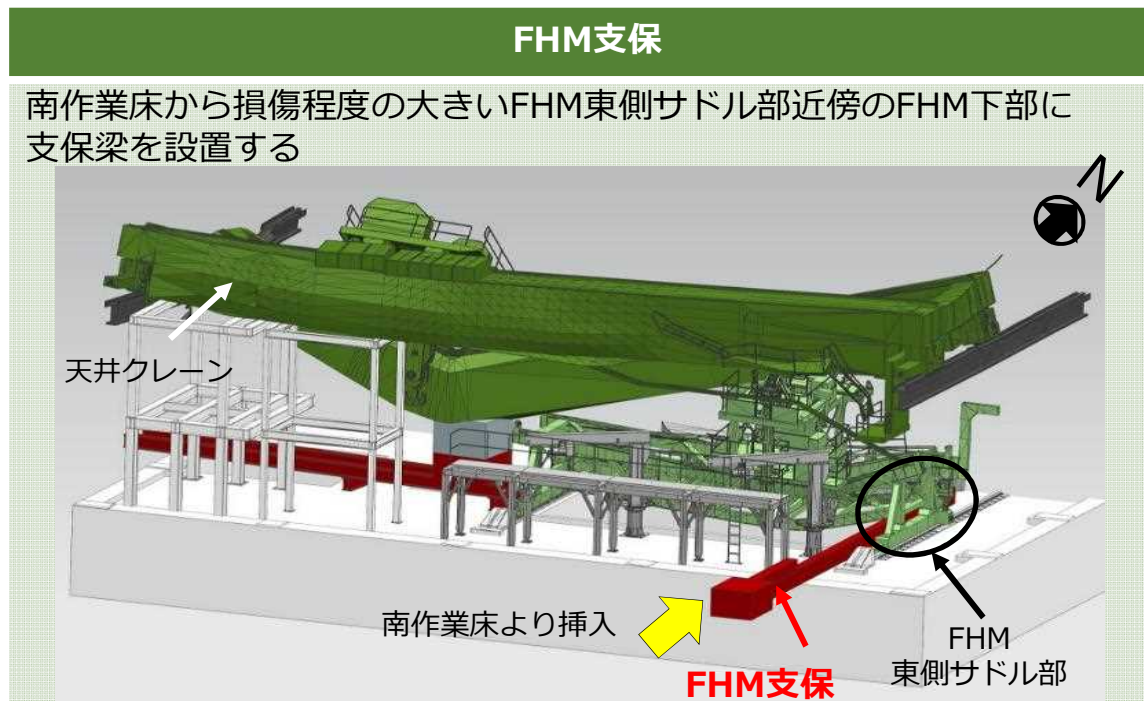
③ FHM支保、④天井クレーン支保
➢ 屋根鉄骨・小ガレキ等撤去により、天井クレーン/FHMの位置ずれや荷重バランスが変動し天井クレーン落下に伴うダスト飛散のリスク及び燃料等の健全性に影響を与えるリスク低減



図：ガレキ落下防止・緩和対策の概要

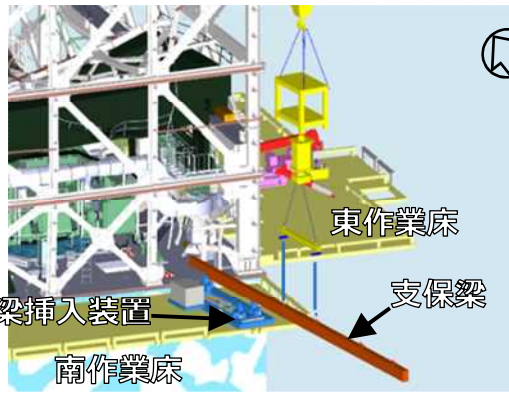
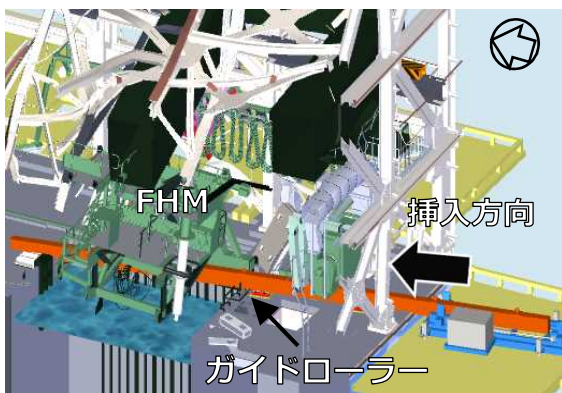

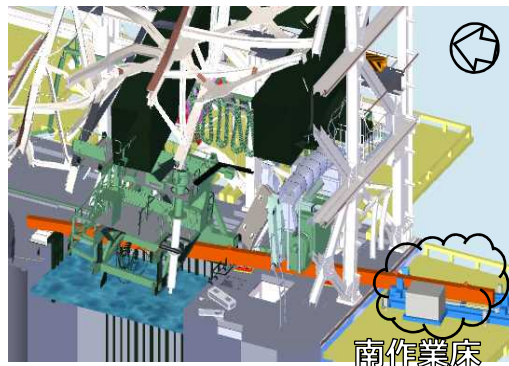
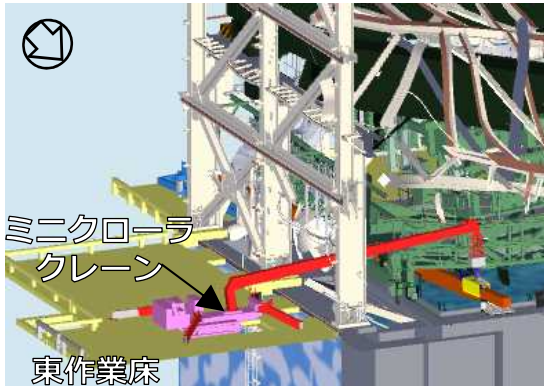
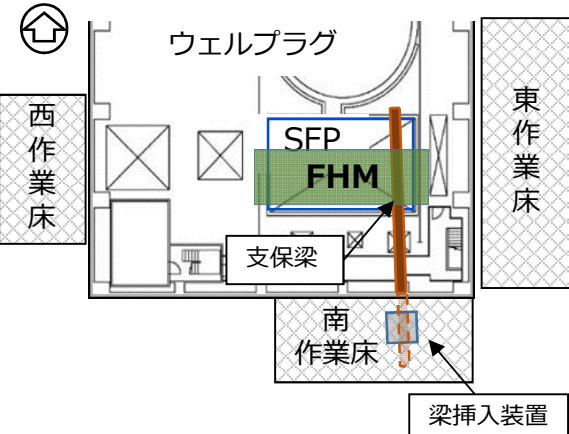
2. FHM支保梁概要

- 天井クレーン・FHM落下対策として、FHMに対してアクセス可能で効果的な位置に支保梁を設置する。



3. FHM支保設置概要

- 南作業床に梁挿入装置及び支保梁を設置し (①)、梁挿入装置及びガイドローラーを用いて支保梁をFHM下部に挿入する (②～③)。その後、作業床上部の支保梁を取り外し、支保梁とFHMの隙間にFHMの北側から矢板を設置して支保梁の固定を行う (④～⑤)。

①支保梁設置	②支保梁挿入	③支保梁挿入 (拡大図)
		
④支保梁挿入 (完了)	⑤矢板設置・支保梁設置完了	配置イメージ
 <p>支保梁挿入完了後、作業床上部の支保梁を取り外す</p>		

4. 支障ガレキ撤去（西側）の進捗について

- 天井クレーン支保設置に向け、2020年7月6日にSFP周辺西側の支障ガレキ撤去を開始。



ガレキ撤去前(撮影日:2020.7.6)



現在(撮影日:2020.8.21)



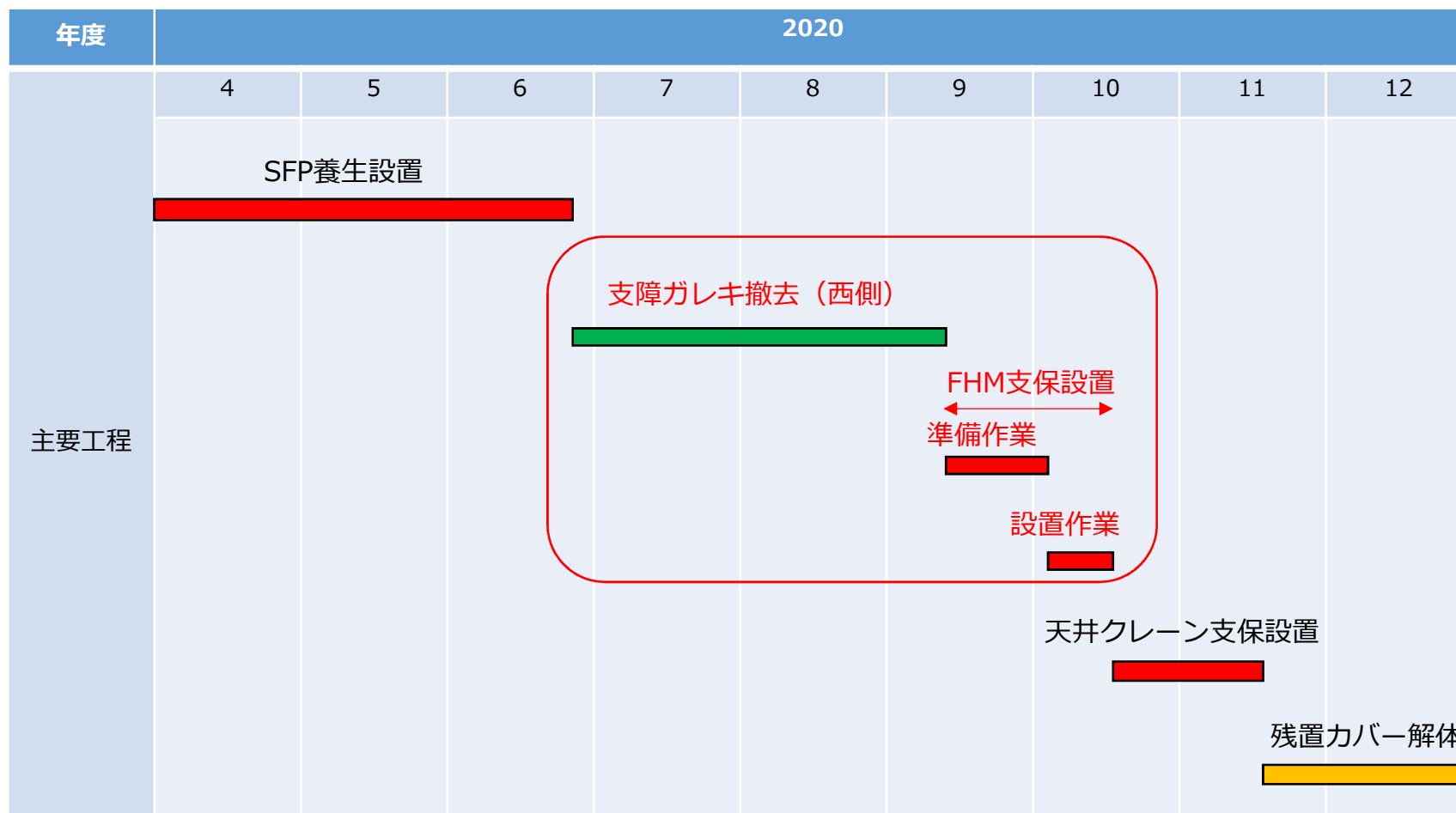
ガレキ撤去作業(撮影日:2020.8.4)



飛散防止剤散布(撮影日:2020.7.21)

5. スケジュール

- 現在、支障ガレキ撤去（西側）を継続しており、FHM支保設置については9月より準備作業を、10月より設置作業を実施予定。
- 実施にあたっては、事前にトレーニングを行い万全な体制を整えた上で、安全最優先に作業を実施する。



※各工程にはトレーニング、準備期間含む。

上記スケジュールは、工事進捗やトレーニング等により変更となる可能性あり。

【参考】 FHM支保設置作業トレーニング

- 支保梁設置作業性試験：支保梁挿入装置を用いて支保梁をFHM下部模擬体の下に挿入(①～③)
- 矢板挿入作業性試験：矢板挿入装置を支保梁に設定し、自走により支保梁とFHMの隙間に設置(④～⑤)



①支保梁挿入装置への支保梁搭載



②支保梁挿入



③支保梁挿入 (完了)

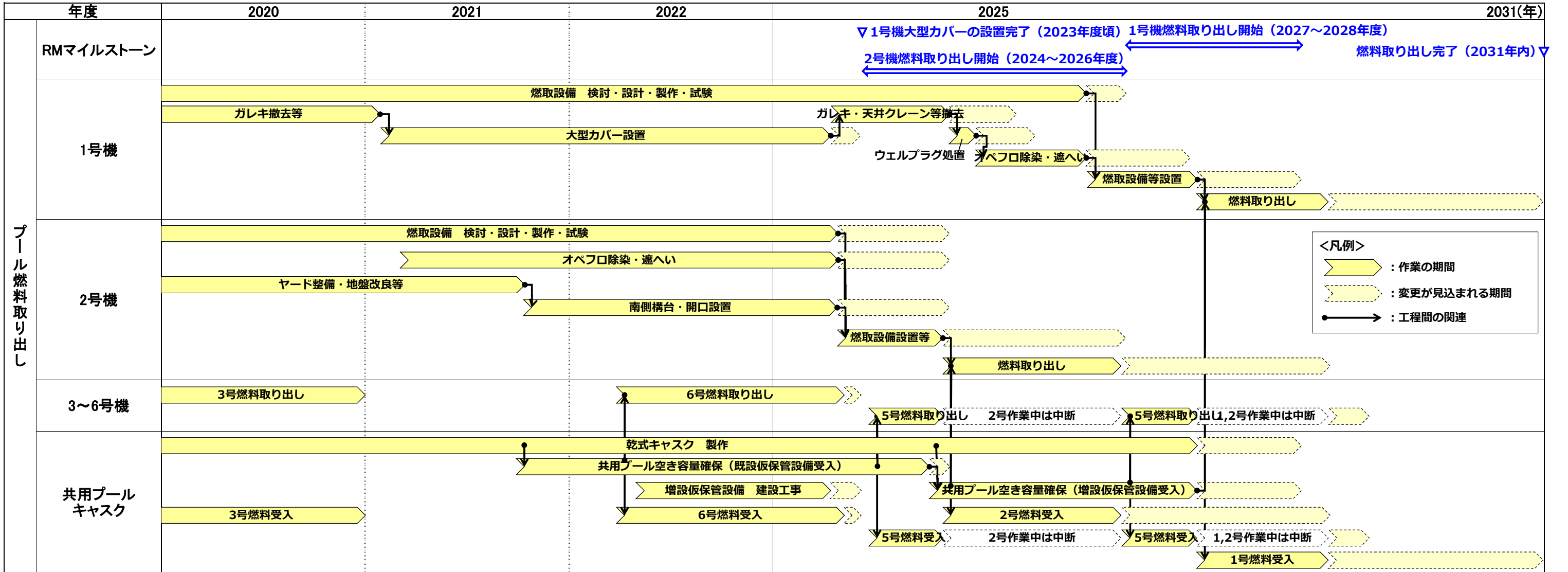


④矢板挿入装置の支保梁への設定



⑤矢板挿入装置自走, 挿入完了

廃炉中長期実行プラン2020



注：今後の検討に応じて、記載内容には変更があり得る

2号機原子炉注水停止試験結果（速報）

2020年8月28日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■ 試験目的

- ✓ 2019年度試験(約8時間)より長期間の注水停止時の温度上昇を確認し、温度評価モデルの検証データ等を蓄積する。

■ 試験概要

- ✓ 2020年8月17日～8月20日までの3日間、注水を停止。炉内状況は安定して推移し、判断基準を満足している。
注水停止：2020年8月17日10:09
注水再開：2020年8月20日11:59
- RPV底部温度、PCV温度に温度計毎のばらつきはあるが概ね予測の範囲内で推移。
- ダスト濃度や希ガス(Xe135)濃度等のパラメータに有意な変動なし。

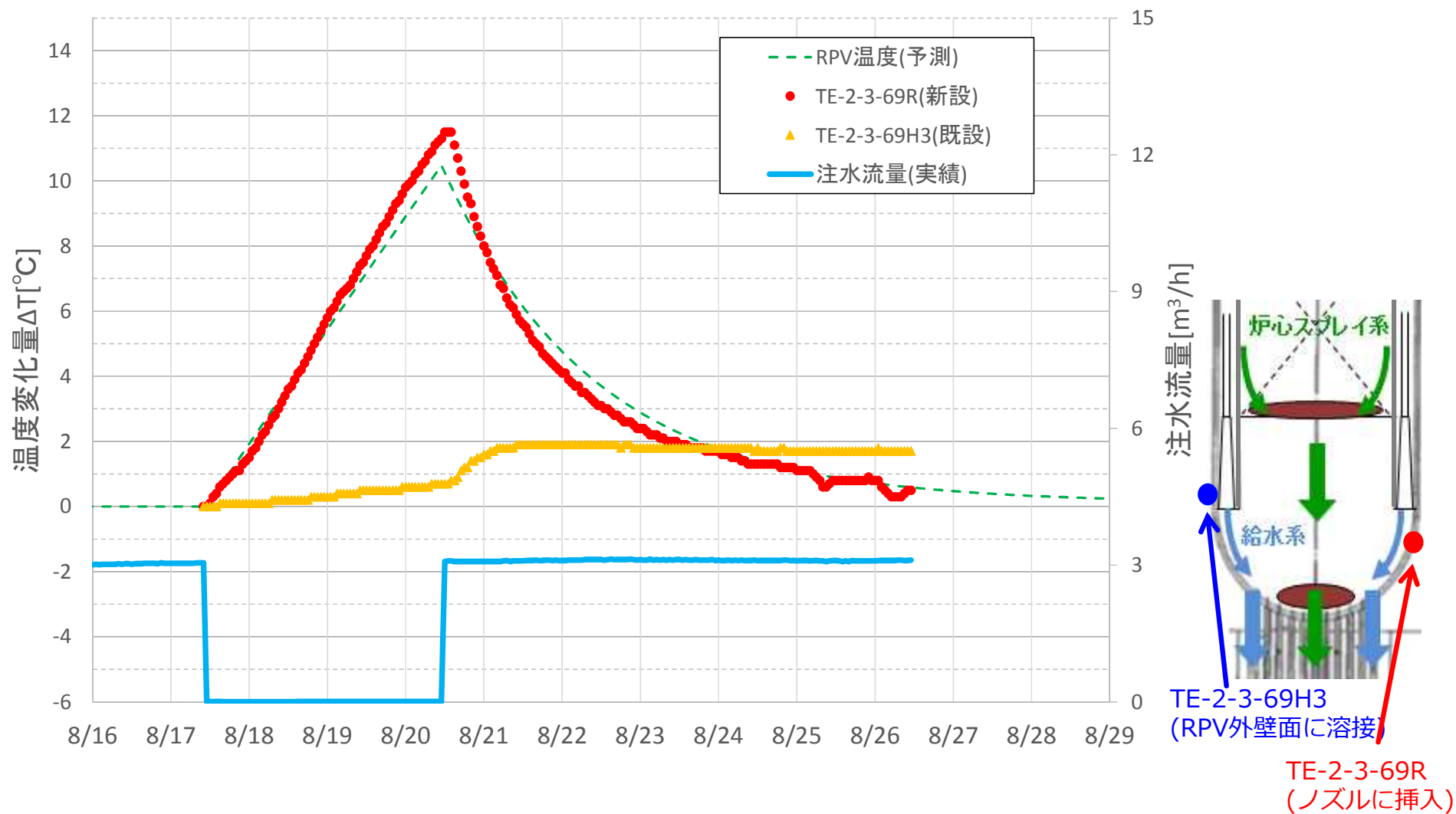
最大温度上昇量

	RPV底部	PCV
注水停止中 (8月17日10:00～8月20日12:00)	11.5℃	0.5℃

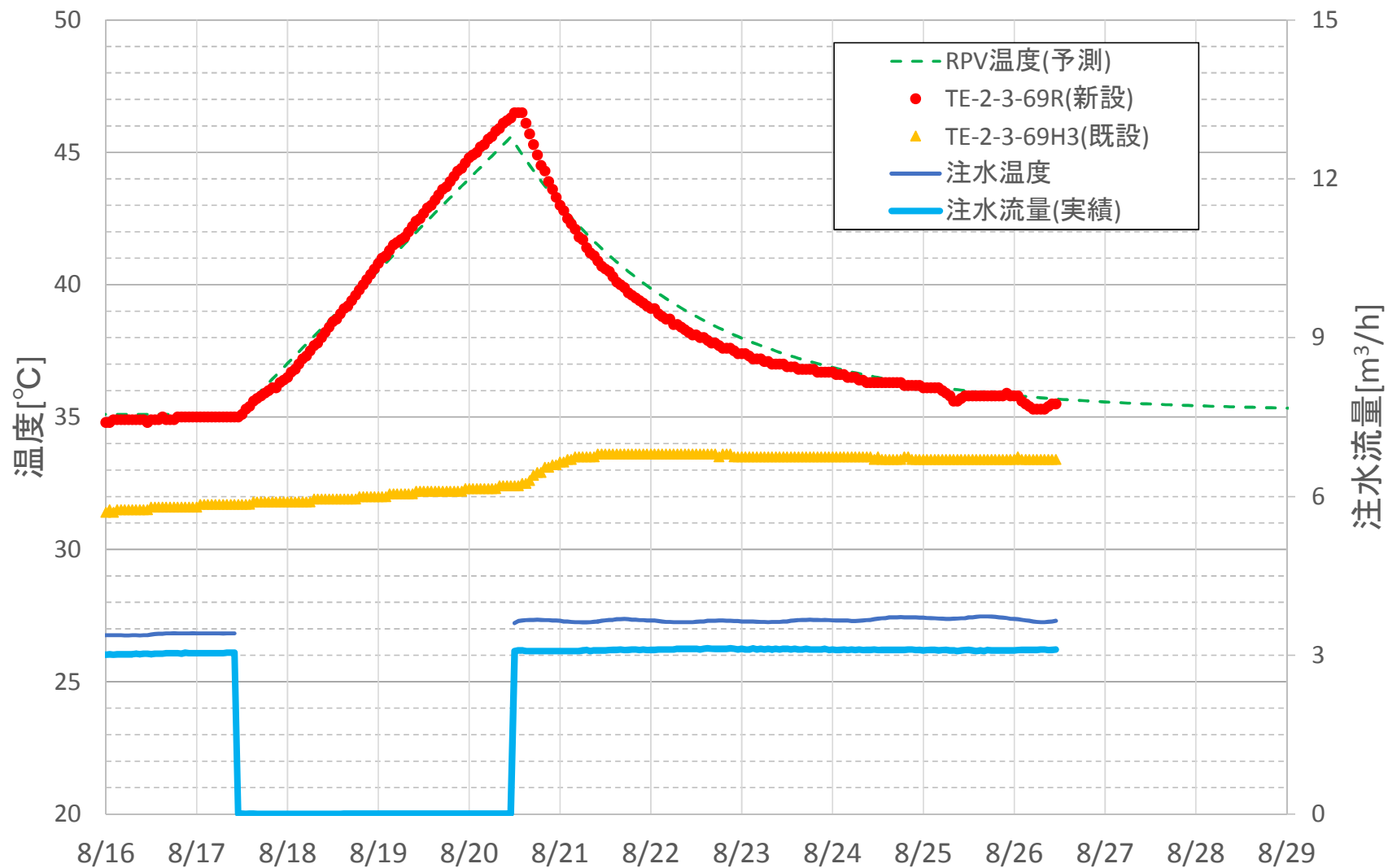
■ 今後

- ✓ 試験終了予定の8月28日までパラメータの監視を継続する。
- ✓ 実際の温度上昇と予測との差異や、温度計の挙動の違い、原子炉注水停止前後に採取した放射線データなどを評価予定。

RPV底部温度の推移 (試験開始からの温度変化量)

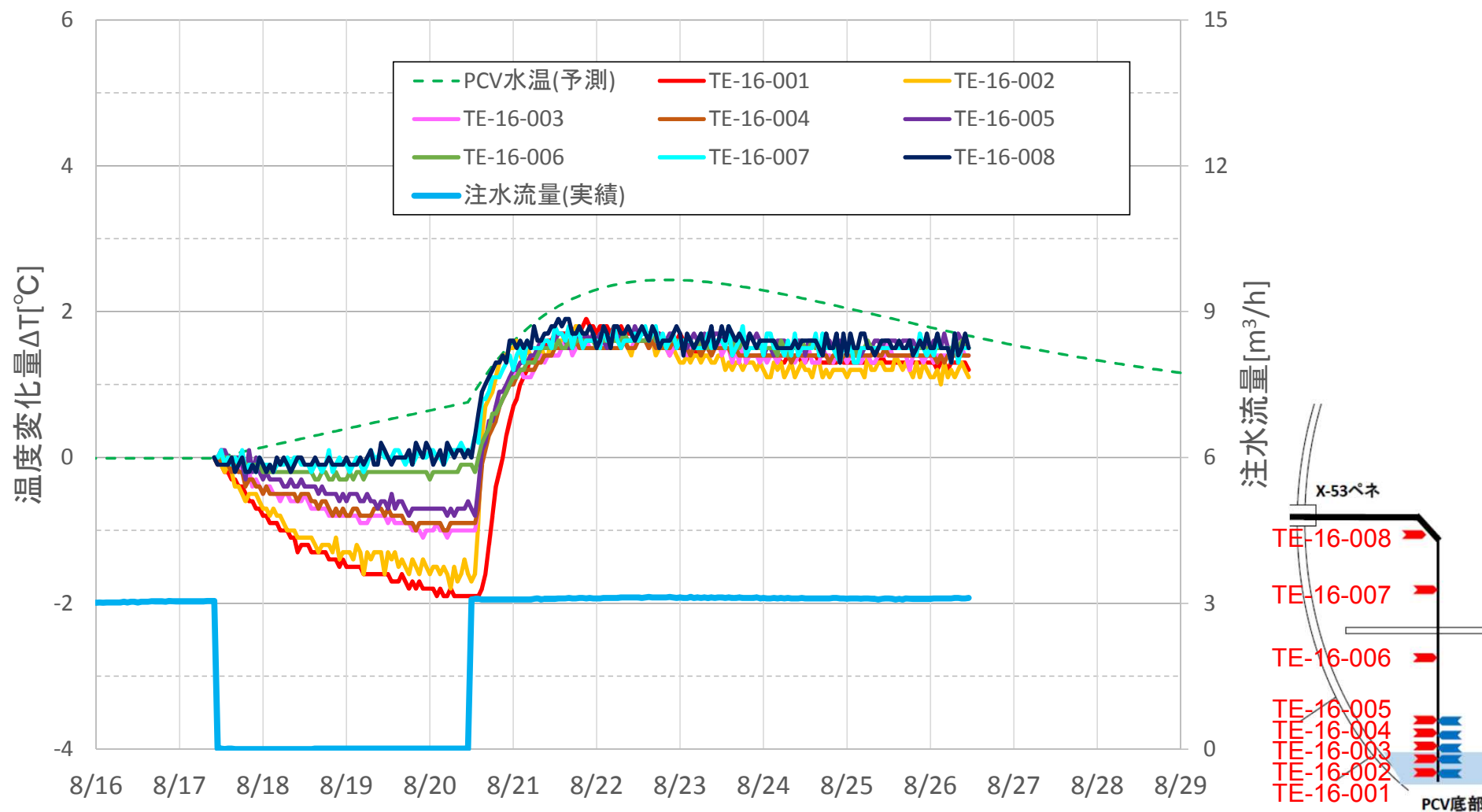


RPV底部温度の推移 (実測値)



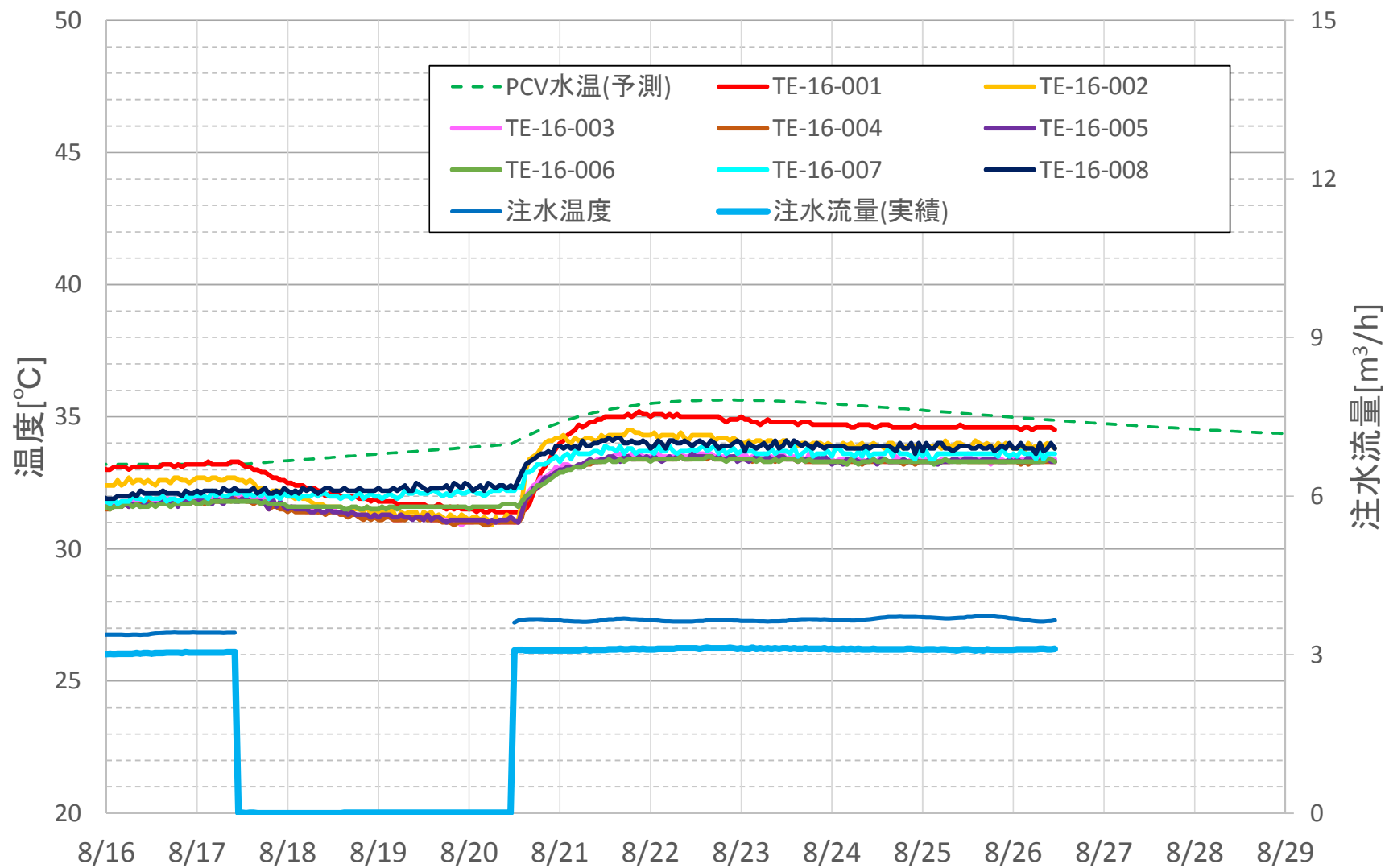
※予測温度は試験開始時の実績温度(TE-2-3-69R)を基準としている

PCV温度(新設)の推移 (試験開始からの温度変化量)



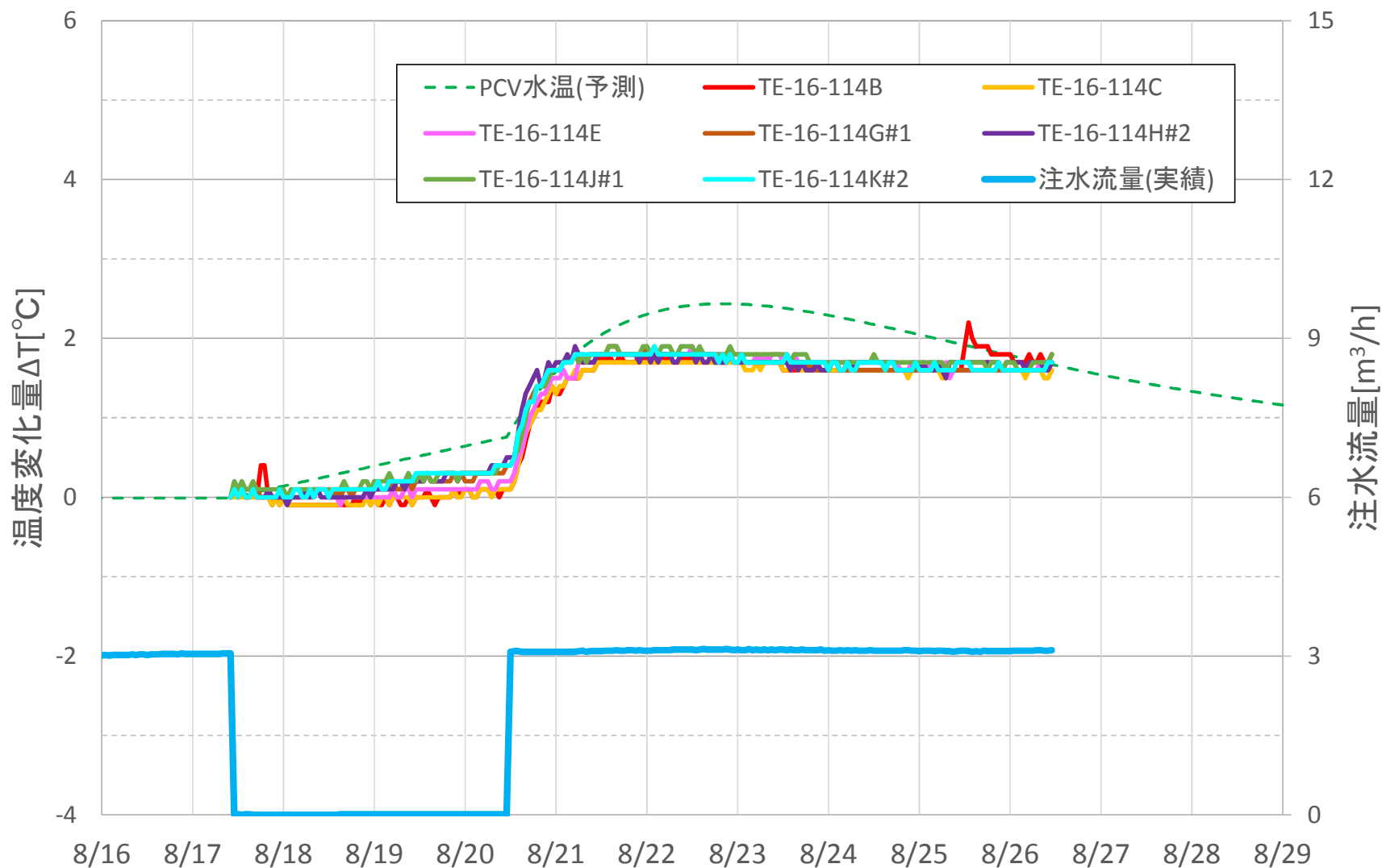
※試験期間中、PCV水位はTE-16-001,TE-16-002が水没で変化なし

PCV温度(新設)の推移 (実測値)

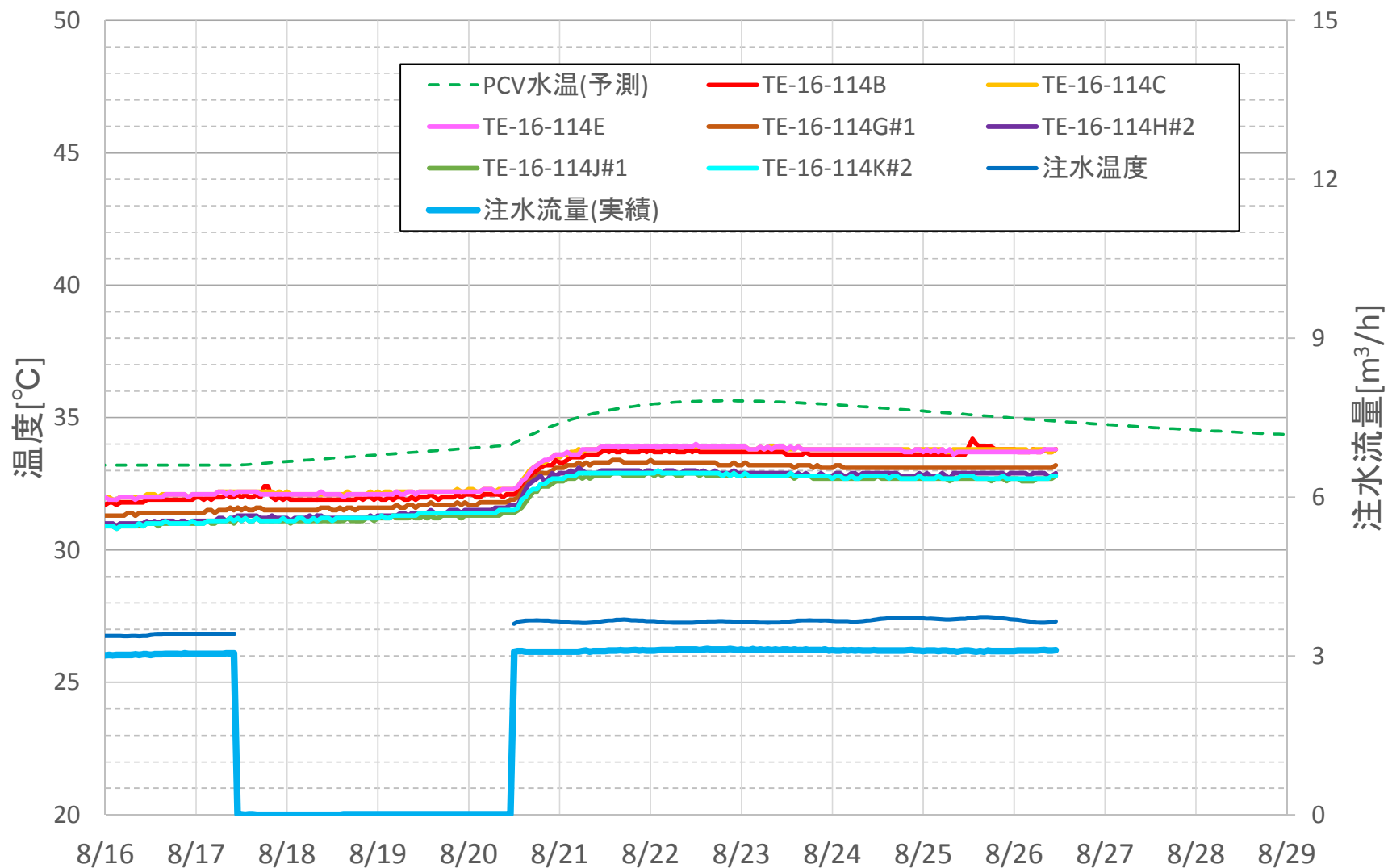


※予測温度は試験開始時の実績温度(TE-16-001)を基準としている

PCV温度(既設)の推移 (試験開始からの温度変化量)

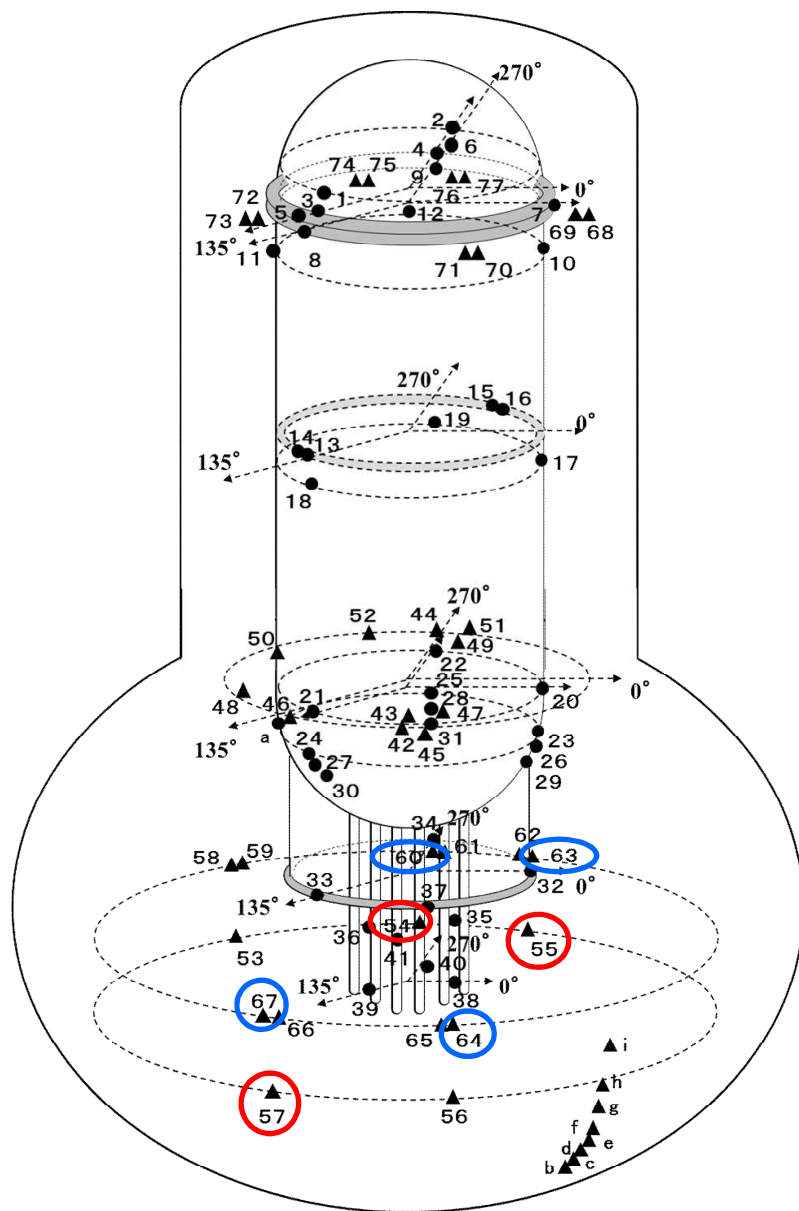


PCV温度(既設)の推移 (実測値)



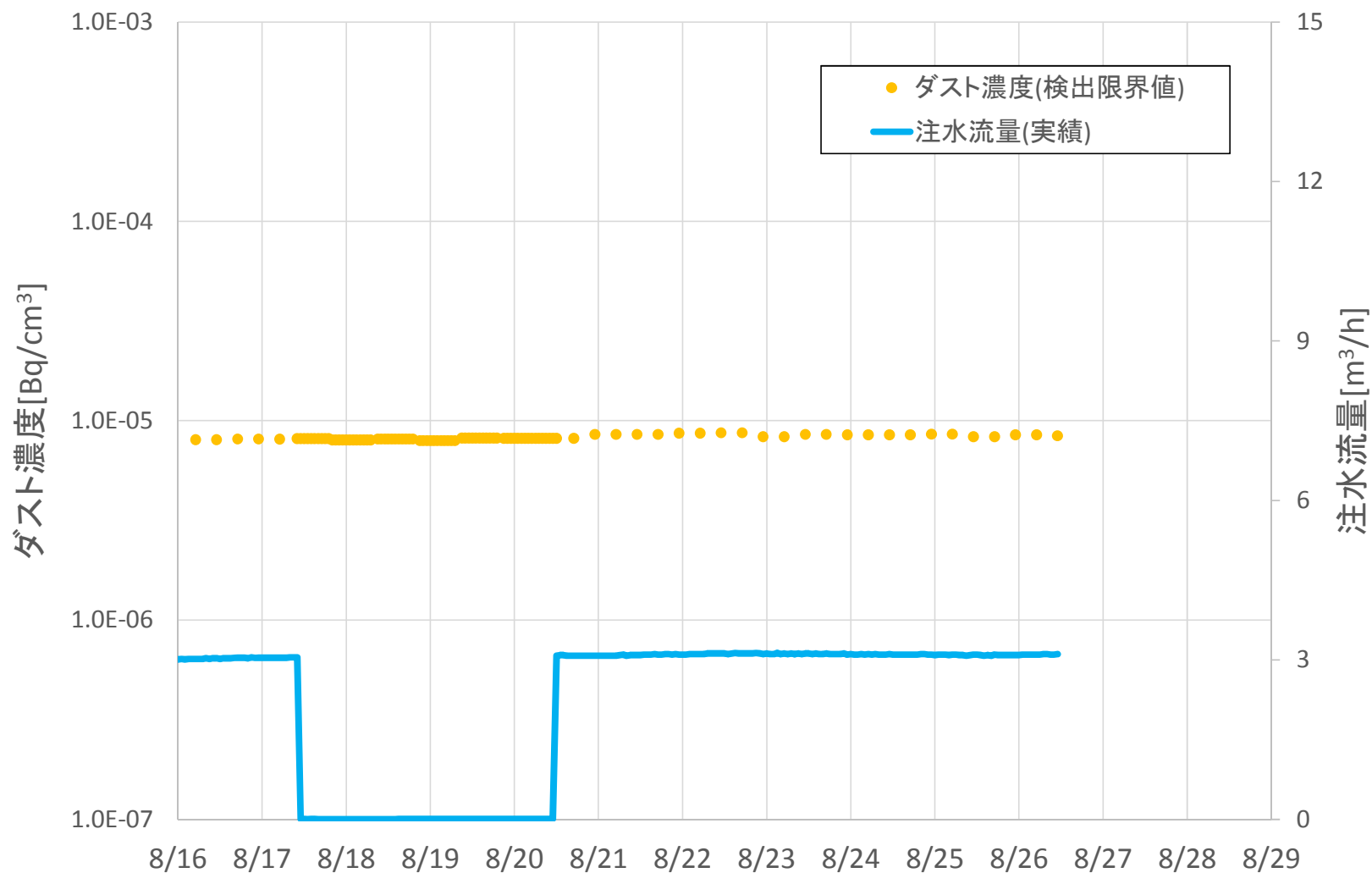
※予測温度は試験開始時の実績温度(TE-16-001)を基準としている

(参考) PCV温度計(既設)設置位置

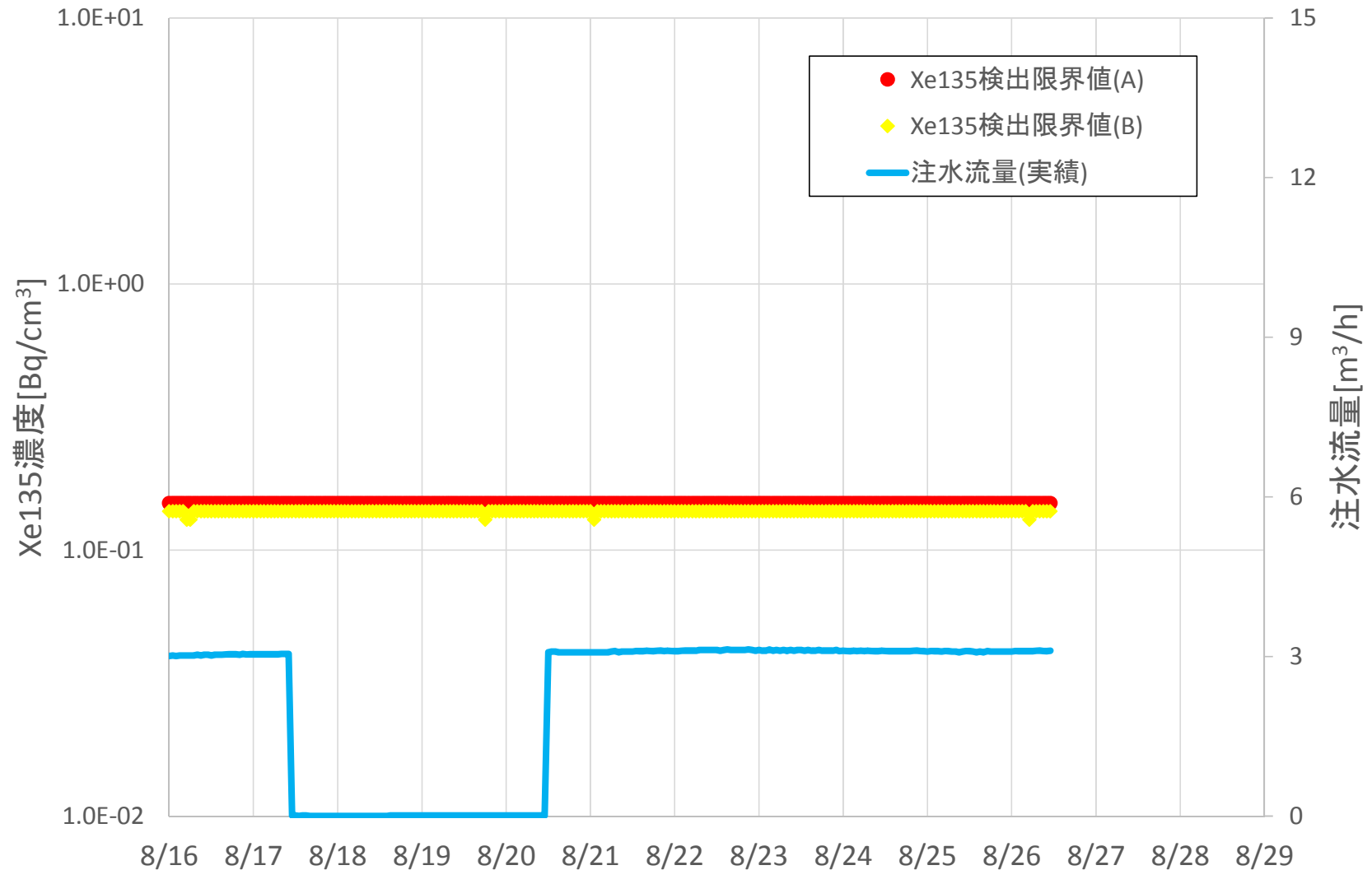


サービス名称	Tag No.	No.
RETURN AIR DRYWELL COOLER	TE-16-114B,C,E	54,55,57
SUPPLY AIR D/W COOLER	TE-16-114G#1, H#2,J#1,K#2	60,63,64,67

- ダストモニタの指示値に有意な上昇なし
(期間中、検出限界未満であり検出限界値をプロット)



- Xe135の指示値に有意な上昇なし
(期間中、検出限界未満であり検出限界値をプロット)



(参考) 監視パラメータと判断基準 (注水停止時)

(1) 冷却状態の監視 (注水量停止時)

監視パラメータ	監視頻度		注水停止時の判断基準
	注水停止中	(参考) 通常監視頻度	
原子炉压力容器底部温度	毎時	毎時	1・3号機：温度上昇が15℃未満 ※1 2号機：温度上昇が20℃未満 ※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	1・3号機：温度上昇が15℃未満 ※1 2号機：温度上昇が20℃未満 ※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	原子炉に注水されていないこと
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	毎時	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 1・3号機15℃以上、2号機20℃以上の温度上昇があった際には、
流量を3.0m³/hに増やす (注水を再開する)。

(2) その他の傾向監視パラメータ

- ・原子炉压力容器上部温度、格納容器圧力、格納容器内水位

(参考) 監視パラメータと判断基準 (注水再開時)

(1) 冷却状態の監視 (注水量増加時)

- 注水変更操作から24時間の監視強化とし、冷却状態に異常が無い場合には、24時間以降は通常頻度での監視に移行。

監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後24時間	24時間以降 (通常監視頻度)	
原子炉圧力容器底部温度	毎時	毎時	1・3号機：温度上昇が15℃未満 ※1 2号機：温度上昇が20℃未満 ※1
原子炉格納容器内温度	毎時	6時間	1・3号機：温度上昇が15℃未満 ※1 2号機：温度上昇が20℃未満 ※1
原子炉への注水量	毎時	毎時	(必要な注水量が確保されていること)
格納容器ガス管理設備 ダストモニタ	6時間	6時間	有意な上昇が継続しないこと

※1 注水変更後、1・3号機10℃以上、2号機15℃以上の温度上昇があった際には、関係者間で情報共有・監視強化を継続する。

(2) 未臨界状態の監視

- 注水変更操作から24時間は速やかにホウ酸水を注入できる体制を維持

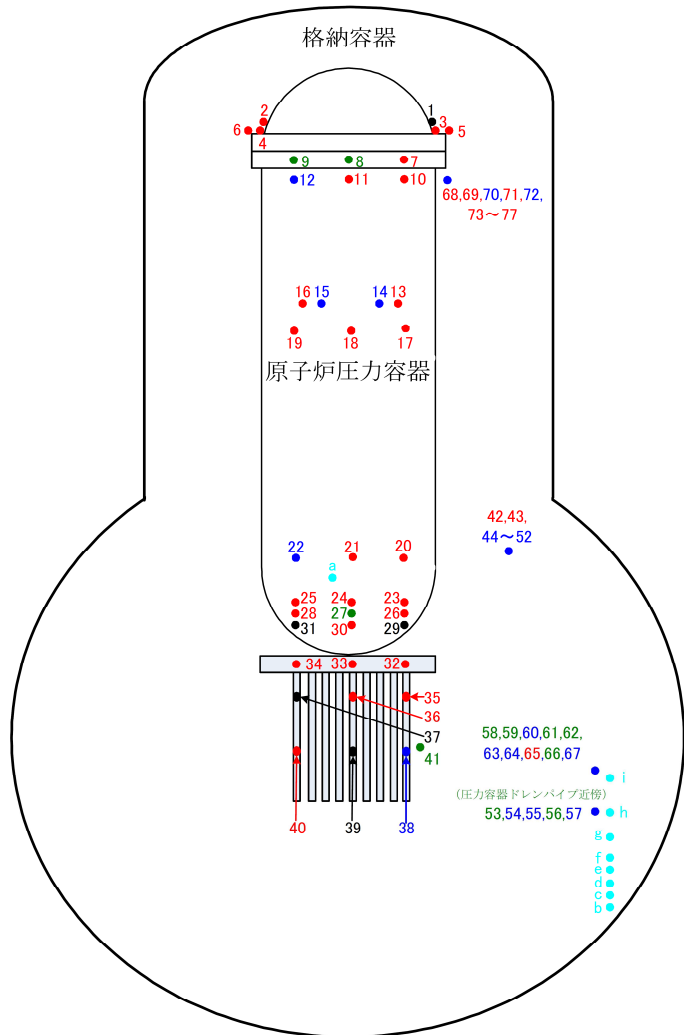
監視パラメータ	監視頻度		注水再開時の判断基準
	操作後24時間	24時間以降 (通常監視頻度)	
格納容器ガス管理設備 Xe-135濃度	毎時	毎時	1号機：通常値の10倍未満であること 2・3号機：NDであること※2

※2 Xe-135の通常値は1号機は $1.0 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$ 程度、2・3号機は検出限界未満(ND)である。運転上の制限である 1Bq/cm^3 に余裕があっても、2系同時に有意に上昇・検知された場合には、確実な未臨界維持のためホウ酸水を注入する。(片系のみ場合は、計器故障の可能性も含めて判断する)

(3) その他の傾向監視パラメータ

- 原子炉圧力容器上部温度、格納容器内水位

(参考) 2号機 監視温度計



- 既設温度計
- 新設温度計
- 故障温度計

■ RPV底部温度計(監視温度計)

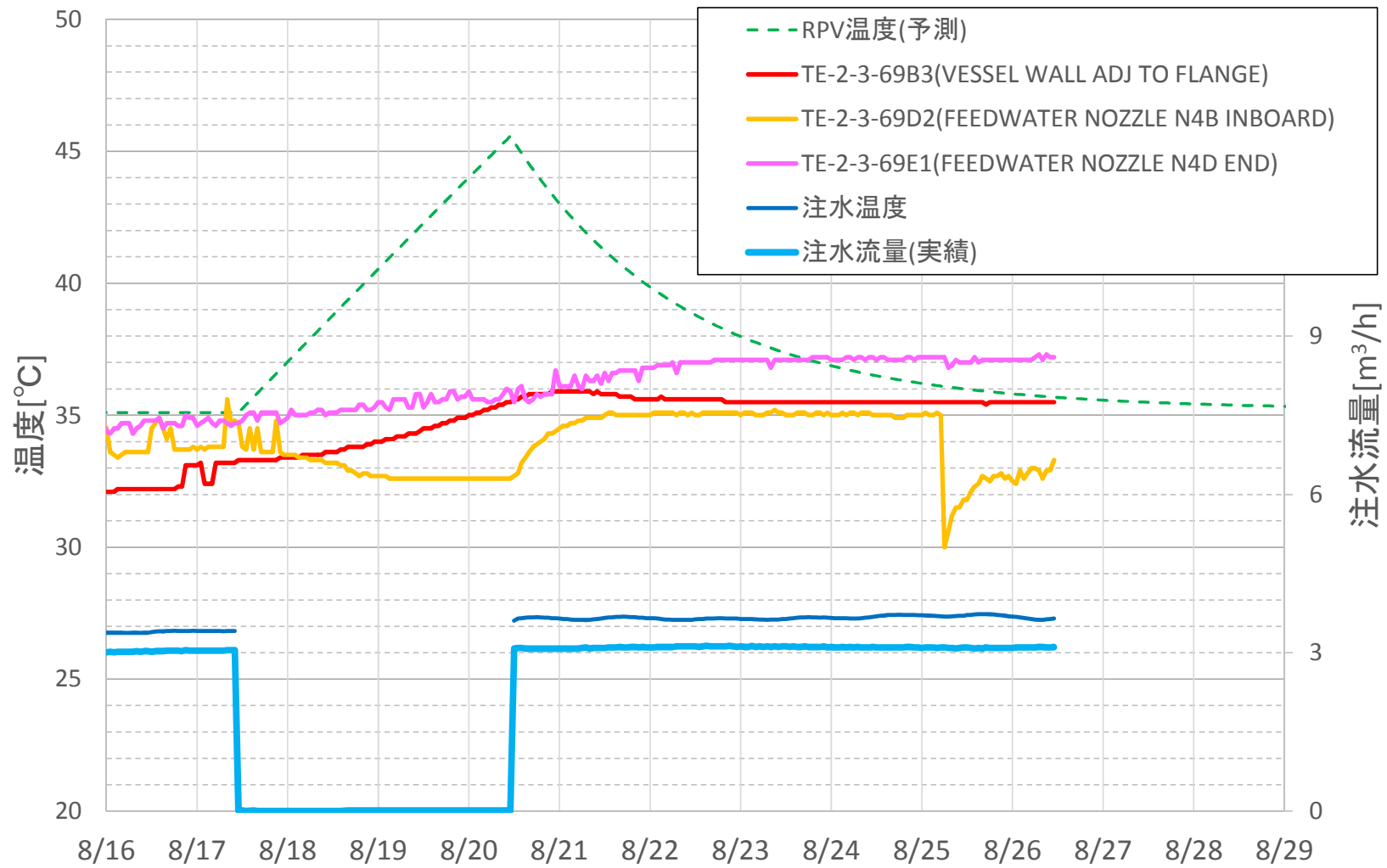
サービス名称	Tag No.	No.
VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD	TE-2-3-69H3	22
RPV温度	TE-2-3-69R	a

■ PCV温度計(監視温度計)

サービス名称	Tag No.	No.
RETURN AIR DRYWELL COOLER	TE-16-114B,C,E	54,55,57
SUPPLY AIR D/W COOLER	TE-16-114G#1, H#2,J#1,K#2	60,63,64,67
PCV温度	TE-16-001~008	b~i

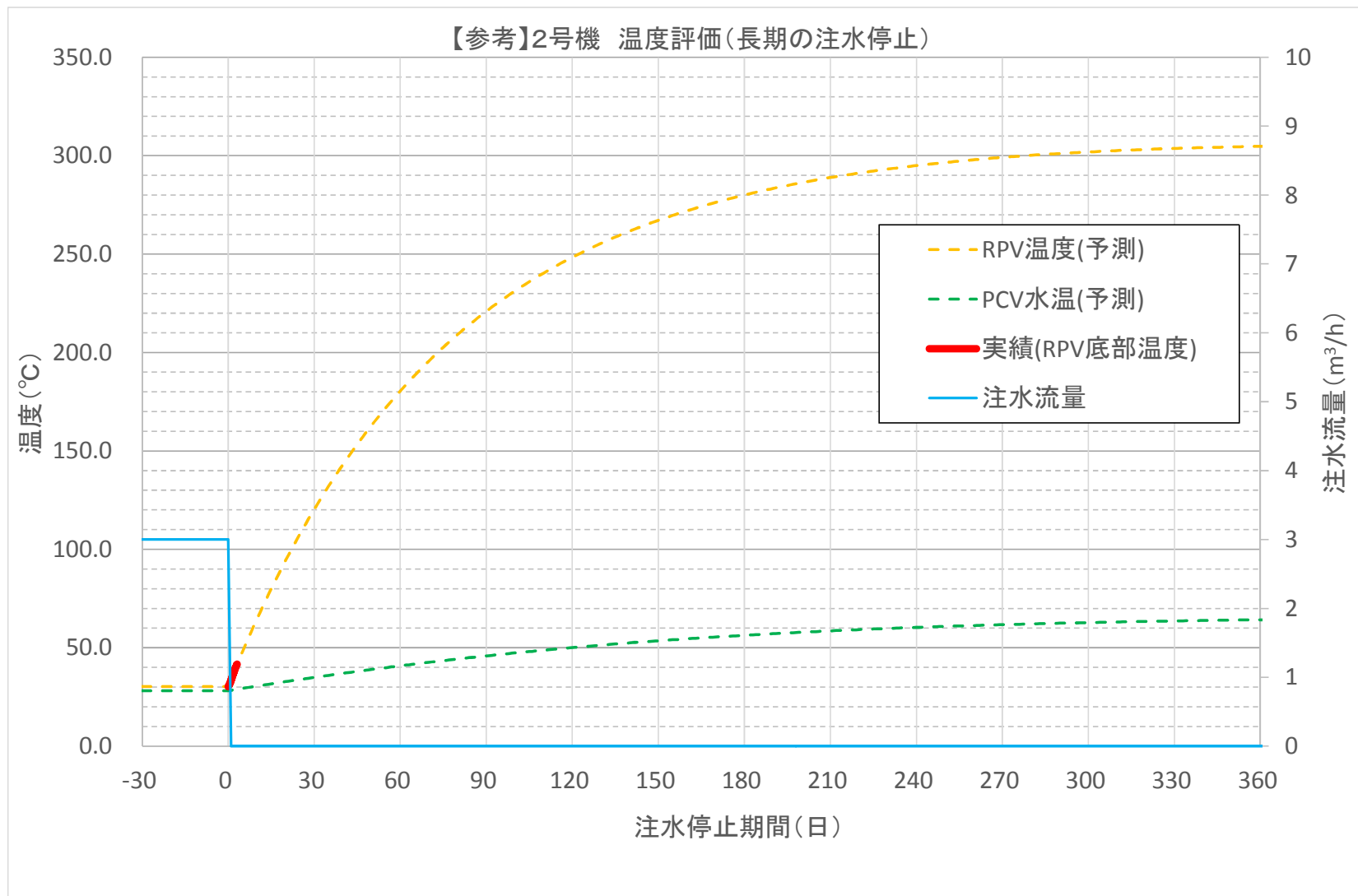
監視温度計：温度計の評価及び点検結果、指示値の日々の変動幅、連続性や経年劣化、事故影響より温度監視に適していると判断された温度計

(参考) RPV上部温度の推移 (実測値)



※予測温度は試験開始時の実績温度(TE-2-3-69R)を基準としている

(参考) 熱バランス評価モデルによる長期の注水停止 (2号機) **TEPCO**



※実績は、予測のRPV温度の初期温度を基準に今回の試験時の温度上昇をプロット

循環注水冷却スケジュール (2/2)

分野名	活り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定		7月						8月						9月			10月			11月			備考
			26	2	9	16	23	30	6	13	下	上	中	下	前	後										
使用済燃料プール関連		(実 績) ・【共通】循環冷却中(継続) (予 定)	現場作業	【1, 2, 3号】循環冷却中																						
		(実 績) ・【共通】使用済燃料プールへの非常時注水手段として コンクリートポンプ車等の現場配備(継続)	現場作業	【1, 2, 3号】蒸発量に応じて、内部注水を実施 【1, 3号】コンクリートポンプ車等の現場配備																						
		(実 績) ・【共通】プール水質管理中(継続)	検討・設計・現場作業	【1, 2, 3, 4号】ヒドラジン等注入による防食 【1, 2, 3, 4号】プール水質管理																						

使用済燃料プール対策 スケジュール

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	7月							8月							9月							10月			11月			備考														
				26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22		29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27
使用済燃料プール対策	カバ	燃料取り出し用カバーの 原子炉建屋上部の ガレキの撤去 燃料取り出し用カバーの 設置工事	<p>1号機</p> <p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料取り出し方法の基本検討 現地調査等 作業ヤード整備 ガレキ撤去 SFP周辺小ガレキ撤去 FHM下部支障物撤去 SFPゲートカバー設置 SFP養生設置 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料取り出し方法の基本検討 現地調査等 作業ヤード整備 ガレキ撤去 SFP周辺小ガレキ撤去 FHM支保設置 	検討・設計	燃料取り出し設備、大型カバーの検討・設計							ガレキ落下防止・緩和対策の検討							①現地調査等(13/7/25~)							②作業ヤード整備等			③ガレキ撤去			④SFP周辺小ガレキ撤去(西側)			⑤FHM支保設置(準備作業含む)			天井クレーン支保設置(準備作業含む)			残置カバー解体			最新工程を反映	<p>【主要工程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ガレキ撤去: '18/1/22~ Xブレース撤去: '18/9/19~'18/12/20 機器ハッチ養生: '19/1/11~'19/3/6 屋根鉄骨分析: '19/2/5~'19/2/22 SFP周辺小ガレキ撤去: '19/3/18~ ウェルフラグ調査: '19/7/17~'19/8/26 SFP内干渉物等調査: '19/8/2, '19/9/4~6 9/20, 27 ウェルフラグ上のH鋼撤去: '19/8/28 FHM下部支障物撤去: '20/3/3~'20/3/14 SFPゲートカバー設置: '20/3/16~'20/3/18 SFP養生設置(準備作業): '20/3/20~'20/5/28 SFP養生設置(循環停止): '20/5/29 SFP養生設置(SFP水位低下作業): '20/5/30~'20/6/18 SFP養生設置(SFP水位回復、循環再開): '20/6/18 FHM支保設置(準備作業含む): '20/9中~'20/10中 天井クレーン支保設置(準備作業含む): '20/10中~ <p>【規制庁関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> オペレーティングフロア床上ガレキの一部撤去等 実施計画変更認可(2019/3/1) <p>※○番号は、別紙配置図と対応</p>
				検討・設計	燃料取り出し設備、燃料取り出し用構台の検討・設計							⑦現地調査等							南側ヤード干渉物撤去							⑧オペレーティングフロア残置物移動・片付け			残置物移動・片付け(その4)			最新工程を反映			コンテナ搬出準備作業			コンテナ搬出						<p>【主要工程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料取り出し計画の選択: '19/10/31 ヤード整備工事: '15/3/11~'16/11/30 西側構台設置工事: '16/9/28~'17/2/18 前室設置工事: '17/3/3~'17/5/16 屋根保護層撤去(遺留重機作業): '18/1/22~'18/5/11 オペレーティングフロア西側外壁開口: '18/4/16~'18/6/21 鉄骨トラス状況確認: '18/2/28~'18/3/17 オペレーティングフロア調査: '18/6/25~'18/7/18 オペレーティングフロア残置物移動・片付け: '18/8/23~'18/11/6 オペレーティングフロア残置物移動・片付け後調査と片付け: '18/11/14~'19/2/28 西側構台設備点検: '19/2/13~'19/3/26 オペレーティングフロア残置物移動・片付け(その2): '19/3/25~'19/8/27 オペレーティングフロア残置物移動・片付け(その3): '19/9/10~'20/2/25 SFP内調査: '20/4/27~'20/6/30(調査: '20/6/10~'20/6/11) オペレーティングフロア残置物移動・片付け(その4): '20/3/2~'20/11/下 <p>【規制庁関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 西側外壁開口設置 実施計画変更認可(2017/12/21) 燃料取り出し用構台 実施計画変更申請(2020/11) 燃料取扱設備 実施計画変更申請(2020/12) <p>※○番号は、別紙配置図と対応</p>	
				現場作業																																									
周辺環境	海洋汚染防止対策等	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1/2Rw/B床面清掃 浄化材製作・設置 1/2Rw/B屋根ガレキ撤去 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1/2Rw/B床面清掃 浄化材製作・設置 1/2Rw/B屋根ガレキ撤去 	検討・設計	2号機Rw/B床面清掃等							2号機Rw/B屋根ガレキ撤去							最新工程を反映																<p>【主要工程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備工事(作業ヤード整備等): '18/10/18~'19/3/24 2号機T/B下屋ガレキ等撤去: '19/3/25~'19/10/31 2号機R/B下屋ガレキ等撤去: '19/11/1~'20/3/7 1/2号機Rw/B床面清掃: '20/2/25~ 1/2号機ガレキ撤去: '20/5/11~ 											
			現場作業	浄化材製作・設置							最新工程を反映																																		
			現場作業	2号機Rw/B屋根ガレキ撤去																																									

使用済燃料プール対策 スケジュール

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	7月							8月							9月							10月		11月		備考					
				26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	上	下						
使用済燃料プール対策	燃料取扱設備	クレーン/燃料取扱機的设计・製作 プール内ガレキの撤去、 燃料調査等	(実績) ・燃料取り出し方法の基本検討 (予定) ・燃料取り出し方法の基本検討	検討・設計	燃料取り出し設備、大型カバーの検討・設計																												【主要工程】 ・燃料取り出し計画の選択：2014年10月 →プール燃料取り出しに特化したプランを選択 ・ガレキ撤去計画継続検討 ・燃料取り出し計画の選択：'19/12/19	
				現場作業																														
				検討・設計	燃料取り出し設備、燃料取り出し用構台の検討・設計																													【主要工程】 ・燃料取り出し計画の選択：'19/10/31
			(実績) ・クレーン/燃料取扱機のメンテナンス等検討 ・ガレキ撤去 ・燃料取り出し (予定) ・ガレキ撤去 ・燃料取り出し	検討・設計																													【主要工程】 ○クレーン/燃料取扱機等設置点検： ・燃料取扱設備点検：'20/3/30~20/4/26 ○燃料取り出しおよびガレキ撤去作業： ・訓練、ガレキ撤去：'19/3/15~ ・燃料取り出し：'19/4/15~ ・追加訓練：'20/4/27~20/5/23	
				現場作業	◎燃料取り出しおよびガレキ撤去作業 ガレキ撤去・燃料健全性確認																													【規制庁関連】 ・3号機燃料取り出し、燃料の取り扱い及び構内用輸送容器 実施計画変更認可申請（2018/3/27） 実施計画変更認可申請の一部補正（2019/2/15） 実施計画変更認可申請の認可（2019/3/12） ・3号機プール内小ガレキ撤去、エリアモニタ、ダストモニタ 実施計画変更認可申請の一部補正（2018/4/13）、認可（6/8） ・3号機損傷・変形等燃料用輸送容器実施計画変更認可申請（2019/8/20）
				現場作業	燃料取り出し																													
	共用プール	燃料受け入れ	(実績) ・3号機燃料受け入れ (予定) ・3号機燃料受け入れ	現場作業	3号機燃料受け入れ																												【主要工程】 ○共用プール設備点検： ・クレーン点検：'20/3/30~20/4/4 ・燃料取扱機点検：'20/4/1~20/4/28 ・燃料ラック取替：'20/4/20~20/5/26	
																																	【規制庁関連】 ・共用プール損傷・変形等燃料ラック実施計画変更認可申請（2019/7/11） 実施計画変更申請の認可（2020/4/8）	

燃料デブリ取り出し準備 スケジュール

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定			7月	8月				9月			10月	11月	備考	
			26	2	9	16	23	30	6	13	下	上	中	下			
原子炉建屋内環境改善	原子炉建屋内の環境改善	1号 (実績) ○建屋内環境改善(継続) (予定) ○建屋内環境改善(継続)	検討・設計													建屋内環境改善 ・2階線量調査の準備作業のうち3階床面穿孔 '20/7/20~'20/9月上旬 R/B2階の線量調査に向けた準備作業のうち、3階南側エリアの床面穿孔を実施。 ・2階線量調査 準備作業・調査 '20/9月上旬~'20/9月下旬 追加・実施時期調整中 2階線量調査 準備作業・調査	
		2号 (実績) ○建屋内環境改善(継続) (予定) ○建屋内環境改善(継続)	検討・設計														追加 建屋内環境改善 1階西側エリア床面除染
		3号 (実績)なし (予定)なし	現場作業														
燃料デブリ取り出し準備	格納容器内水循環システムの構築	共通 (実績)なし (予定)なし	検討・設計													S/Cサンプリング ・準備作業・S/Cサンプリング'20/7/7~'20/9月下旬 実施時期調整中	
		1号 (実績)なし (予定)なし	現場作業														
		2号 (実績)なし (予定)なし	現場作業														
		3号 (実績) ○サブプレッションチェンバ(S/C)内包水サンプリング(継続) (予定) ○サブプレッションチェンバ(S/C)内包水サンプリング(継続)	検討・設計														
燃料デブリ取り出し	燃料デブリの取り出し	1号 (実績) ○原子炉格納容器内部調査(継続) (予定) ○原子炉格納容器内部調査(継続)	検討・設計													PCV内部調査に係る実施計画変更申請('18/7/25) →補正申請('19/1/18) →認可('19/3/1) 【主要工程】 ・PCV内部調査装置投入に向けた作業'19/4/8~ PCV内部調査に係る実施計画変更申請('18/7/25) →1号機PCV内作業時のダスト飛散事象を踏まえて、2号機においてもダスト低減対策を検討中。2号機PCV内部調査は2021年内開始を目指す試験的取り出しと合わせて実施することで検討中。	
		2号 (実績)なし (予定)なし	現場作業														
		3号 (実績)なし (予定)なし	現場作業														

使用済燃料プール水質状況について

2020/8/21

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■ 使用済燃料プール水質サンプリング結果

試料名	採取日時	pH	導電率	Cl (塩化物イオン)	Cs-134	Cs-137	備考
		—	mS/m	ppm	Bq/L	Bq/L	
1号機 SFP	2020/4/10	8.3	31	25	3.3E+05	6.8E+06	実施計画に基づくサンプリング
	2020/7/17	8.5	34	25	3.2E+05	7.3E+06	
2号機 SFP	2020/4/17	8.5	26	16	1.8E+04	5.9E+05	
	2020/7/15	8.6	26	16	1.6E+04	6.0E+05	
3号機 SFP	2020/4/9	8.2	38	35	2.8E+04	4.7E+05	
	2020/7/13	8.3	37	36	3.4E+04	6.1E+05	
4号機 SFP	2020/4/9	8.5	20	22	7.0E+01	2.2E+03	
	2020/7/13	8.8	21	22	5.2E+01	2.5E+03	
管理値		5.6~10.0 (4号機は 5.6~11.0)	40以下	100以下 (導電率が40mS/m を超える場合)	—	—	プール水温 25℃において

✓ 微生物の発生防止のため、ヒドラジン間欠注入を実施中

汚染水対策スケジュール (1/2)

分野名	活り	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	8月						9月			10月	11月	備考		
			2	9	16	23	30	6	13	下	上	中	下			
中長期課題 汚染水対策分野	建屋滞留水処理	【1, 2号機 滞留水移送装置設置】 【3, 4号機 滞留水移送装置設置】 (実績) ・穿孔・地下干渉物撤去 ・架台・配管・ポンプ設置 ・3, 4号機 滞留水移送装置設置A系*運用開始	現場作業	【1, 2号機】 滞留水移送装置設置											▼A系統運用開始 ▼B系統運用開始	2020年1月30日 1~4号機建屋滞留水移送装置の追設の実施計画変更認可 (原規規発第2001303号) 2020年1月30日 1~4号機建屋滞留水移送装置の追設の実施計画変更認可 (原規規発第2001303号) 2020年8月14日 3/4号機滞留水移送装置A系統*使用前検査終了証受領 (原規規発第2008145号) ※3号機T/Bサービスエリアを除く
		【1~4号機滞留水浄化設備】 (実績) ・【1~4号機】 建屋滞留水浄化 運用中	現場作業	【1~4号機】 建屋滞留水浄化 運用中												
	浄化設備	【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現場作業	▼B/8 再利用分溶接型タンク内 Sr処理水の処理完了 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)							二次処理検証試験実施予定(9月中旬~9月下旬) 工程調整中					処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止
		【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現場作業	前処理フィルタ補修完了(7/14~8/6) 処理運転												サブドレン汲み上げ、運用開始(2015.9.3~) 排水開始(2015.9.14~)
		【5/6号機サブドレンの復旧】 (実績) サブドレン設備復旧検討完了 (予定) サブドレン設備復旧工事着手(9/7~)	検討・設計	サブドレン設備復旧方法検討												サブドレン設備復旧方針検討完了(9月7日工事着手予定)
		【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現場作業	処理運転												2017年7月28日 除染装置関連設備撤去の実施計画変更認可(原規規発第1707283号) 2017年9月28日 第三セシウム吸着装置設置の実施計画変更認可(原規規発第1709285号) 第三セシウム吸着装置設置コード試験完了(H30.7月) 2019年1月28日 第三セシウム吸着装置使用前検査修了証受領(原規規発第1901286号) 2019年7月12日運用開始
陸側遮水壁	(実績・予定) ・未凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全域展開完了	現場作業	維持管理運転(北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域 山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)											2016年3月30日 陸側遮水壁の閉合について実施計画変更認可(原規規発第1603303号) 2016年12月2日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(原規規発第1612024号) 2017年3月2日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(未凍結箇所4箇所の閉合:原規規発第1703023号) 2017年8月15日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(未凍結箇所1箇所の閉合:原規規発第1708151号)		
H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	現場作業	モニタリング													

分野名	括り	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	8月					9月				10月	11月	備考												
			2	9	16	23	30	6	13	下	上	中	下													
			設計検討																							
汚染水対策分野	中長期課題	(実績・予定) ・追加設置検討(タンク配置) ・G4南フランジタンク基礎・堰設置工事 ・Cフランジタンク解体工事 ・Eフランジタンク解体工事 ・G1エリアタンク基礎・堰設置工事 ・G5エリアタンク解体工事 ・H9・H9西エリアタンク解体工事 ・G1エリアタンク設置 ・G4南エリアタンク設置	設計検討																							
			G4南フランジタンクリブレース工事(タンク堰構築)													2018年7月5日 G4南エリアにおける中低濃度タンクの撤去等について 実施計画変更認可										
			Cフランジタンクリブレース工事(タンク解体)													2019年2月15日 Cエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について 実施計画変更認可										
			Eフランジタンクリブレース工事(タンク解体)													2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について 実施計画変更認可										
			G1横置きタンクリブレース工事(タンク堰構築)													2017年10月17日 G1エリアにおける高濃度タンクおよび中低濃度タンク撤去等について 実施計画変更認可										
			G5フランジタンクリブレース工事(タンク解体)													2019年12月17日 G4北・G5エリアにおける中低濃度タンク撤去等について 実施計画変更認可										
			G1エリアタンク設置													2020年7月8日 H9・H9西エリアにおける中低濃度タンク撤去等について 実施計画変更認可										
			▼(1,356m ³)(1基) ▼(2,712m ³)(2基) ▼(2,712m ³)(2基) ▼(2,712m ³)(2基) ▼(2,712m ³)(2基)													(2,712m ³)(2基) ▼(2,712m ³)(2基) ▼(4,068m ³)(3基)										
			G4南エリアタンク設置													2019年8月2日 G1・G4南エリアタンク設置について実施計画認可(原規模第1908024号) G1エリア 1356m ³ (66基) G1使用前検査済み(48/66基)										
			▼(2,712m ³)(2基) ▼(2,712m ³)(2基) (2,712m ³)(2基)													▼(2,712m ³)(2基) ▼(2,712m ³)(2基)										
2.5m盤の地下水移送	現場作業	(予定・実績) ・地下水移送(1-2号取水口間) (2-3号取水口間)(3-4号取水口間) (実績) <3号機T/B屋根> ・7月8日 流入防止堰設置完了 ・7月20日 雨水カバー設置開始 ・8月7日 雨水カバー設置完了	3号機タービン建屋屋根対策													4号機海側:2017年10月完了 3号機海側:~2018年7月12日完了 1、2号機海側ヤード:2018年8月~2019年1月 その他海側エリア:2019年3月~2020年3月 3号T/B屋根対策ヤード整備:2019年7月完了 3号T/B屋根ガレキ撤去作業:2019年7月~2020年9月 3号T/B屋根防水塗装・シーリング作業:9月末完了予定										
			防湿設置													工事開始(2019年7月29日) L型擁壁の据え付け開始(2019年9月23日) 防湿設置2020年度上期完了予定 防湿L型擁壁等据付 520m/600m(2020年8月24日) 内閣府公表津波(2020.4)に関して影響評価実施中										
津波対策	現場作業	○千島海溝津波対策 ・防潮堤設置 (実績)既設設備撤去・移設、造成嵩上げ、L型擁壁設置、ボックスカルバート設置 約520m完了(全長約600m)(8月24日時点) (予定)重力式擁壁設置、排水設備設置	[区分④] 1~3R/B扉等													【区分①②】1~3T/B等2019年3月、全67箇所完了 【区分③】2、3R/B外部のハッチ等(2019年3月~2020年3月、全20箇所完了) 【区分④】1~3R/B扉等(2019年9月~2020年12月、13箇所/16箇所完了) 【区分⑤】1~4Rw/B、4R/B、4T/B(2020年3月~2022年3月、3箇所/24箇所完了)										
			[区分⑤] 1~4Rw/B、4R/B、4T/B扉等																							
			内部充填作業													着底マウンド造成:2019年5月20日開始、2020年2月7日完了 バラスト水処理:2019年5月28日開始、2020年2月20日完了 内部除染:2019年7月16日開始、2020年2月26日完了 メガフロート移設・仮着底:2020年3月4日完了 内部充填:2020年4月3日開始、8月3日完了 護岸ブロック据付:2020年9月中旬頃開始予定										
○3.11津波対策 ・建屋開口部閉止 (実績)閉止箇所数 103箇所/127箇所(8月25日時点) (予定)外部開口閉塞作業 継続実施													内部充填作業													
○3.11津波対策 ・メガフロート移設 (実績)着底マウンド造成100%、バラスト水処理100%、内部除染作業100% メガフロート移設・仮着底:100% 内部充填作業:100% (予定)護岸ブロック製作・据付、港湾ヤード整備													護岸工事													

水処理設備の運転状況、運転計画
(2020年8月21日～2020年9月3日)

2020年8月28日
東京電力ホールディングス株式会社

多核種除去設備

	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)
A	停止													
B	←→				停止		←→				停止			
C	停止													

増設多核種除去設備

	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)
A	←→	停止		←→										
B	停止													
C	←→			停止			←→							

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)
SARRY	←→													
SARRY2	停止													
KURION	停止(滞留水の状況に応じて運転を計画, 実施)													

※ 現場状況を踏まえて運転するため、計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について
(2020年8月21日～2020年8月27日)

2020年8月28日
東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位					タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位		
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス 主建屋	高温焼却炉 建屋	サイトバンカ 建屋
			ホップエリア	南東エリア												
8月21日	-1844	-1770	-1982	-2089	-3161	-	-1283	-1624	-1479 以下	-	-1322	-1581 以下	-1519 以下	180	99	2708
8月22日	-1836	-1781	-2014	-2107	-3161	-	-1277	-1628	-1479 以下	-	-1320	-1581 以下	-1519 以下	65	344	2708
8月23日	-1840	-1776	-2064	-2140	-3161	-	-1277	-1627	-1479 以下	-	-1319	-1581 以下	-1519 以下	-95	562	2708
8月24日	-1845	-1755	-2052	-2168	-3161	-	-1276	-1625	-1479 以下	-	-1316	-1581 以下	-1519 以下	-254	764	2708
8月25日	-1851	-1765	-2077	-2011	-3236 以下	-	-1281	-1624	-1479 以下	-	-1315	-1581 以下	-1519 以下	-281	872	2708
8月26日	-1850	-1755	-2071	-2189	-3236 以下	-	-1275	-1644 以下	-1479 以下	-	-1312	-1581 以下	-1519 以下	-277	998	2708
8月27日	-1834	-1753	-2071	-2233	-3236 以下	-	-1271	-1644 以下	-1479 以下	-	-1311	-1581 以下	-1519 以下	-274	1044	2708
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796		-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	-

備考欄

- ※ T.P.表記(単位:mm)
- ※ 5時時点の水位
- ※ 1号機タービン建屋の滞留水除去完了(2017年3月)
- ※ 1号機廃棄物処理建屋は水位計の測定下限値以下まで水位低下(2018年7月)
- ※ サイトバンカ建屋水位は、流入量調査のため一時的に水位計の測定下限値以下まで水位低下(2019年4月16日～)
- ※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)
- ※ 4号機タービン建屋水位は、水位計測定下限以下に水位低下したため記載を変更(2019年12月27日～)
- ※ 4号機廃棄物処理建屋水位は、水位計測定下限以下に水位低下したため記載を変更(2020年1月17日～)
- ※ 3号機廃棄物処理建屋水位は、水位計測定下限以下に水位低下したため記載を変更(2020年8月18日～)
- ※ 4号機原子炉建屋水位は、水位計測定下限以下に水位低下したため記載を変更(2020年8月25日～)
- ※ 3号機タービン建屋水位は、水位計測定下限以下に水位低下したため記載を変更(2020年8月26日～)

各エリア別タンク一覧

東京電力ホールディングス株式会社

1~4号機用汚染水貯蔵タンク

タンク基盤、水位、貯蔵量、実容量表 2020年8月20日

エリア	基盤	1基あたり容量(公称) [m3]	タンク型	貯蔵水	H水位 (mm)	H容量/基 =実容量/基 (m3)	0%以下 貯蔵量(m3)	0%以上 貯蔵量(m3)	実容量 (m3)	水位管理				放射能濃度(Bq/cc)						測定時期	最終 使用開始時期	
										水位(%) (最大値)	スロッシング 考慮(%)	HANN (%)	HHANN (%)	Ce-134	Ce-137	Co-60	Mn-54	Sr-125	Ru-106			Sr-90
C	26	40	鋼製角型タンク(溶接)	濃縮塩水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H30.10)						H23.6		
	52	40	鋼製角型タンク(溶接)	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H30.10)						H23.8		
C東	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	S-処理水等(M)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中						H25.7			
D	19	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	S-処理水等(C)	12936	1004	約210	13599	19078	80.7	95	88.7	90	1.4E+00	5.4E+00	8.2E-02	<1.9E-02	3.1E+00	<3.5E-01	4.4E+01	H27.3	H26.8
	12	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	RO処理水(淡水)	12936	1004	約140	5740	12049	67.4	95	88.7	90	タンクの分析は未実施						R1.11		
E	26	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	S-処理水等(A)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中						H24.8			
	18	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	S-処理水等(C)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中									
	2	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	濃縮塩水	9880	1054	約500	—	2109	19.4	95	96.3	98.9	2.7E+00	8.6E+00	3.0E+00	1.4E+00	3.7E+01			1.3E+01	3.8E+04
G1	72	100	鋼製横置きタンク(溶接)※土中埋設	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H31.2)						H24.8			
G3東	24	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	9400	1069	約50	25460	25652	97.1	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H25.4		
G3西	21	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設) ※1,4	9400	1012	約20	7045	21251	92.0	100	92.5	93.8	<1.0E-02	<7.2E-03	2.0E-02	<6.9E-03	2.4E-02	<2.8E-02	<1.5E+00	H28.1	H25.10
	18	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	S-処理水等(C, R) ※1	9400	1012	約40	2564	18215	39.5	100	92.5	93.8	<7.1E-01	2.7E+00	<2.0E-02	<6.9E-03	2.4E-02	<2.8E-02	<1.5E+00	H28.1	H25.10
G3北	6	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設) ※4	9400	1069	約10	6393	6413	97.4	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						R2.3		
G4北	6	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体済(R2.7) ※3						H25.9			
G5	17	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中						H25.12			
G6	38	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13674	1297	約30	49048	49303	97.6	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H31.4		
G7	10	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	13415	690	約10	6707	6898	95.0	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H26.12		
G1南	8	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	11920	1130	約20	9005	9042	97.2	99	97.6	98.9	タンクの分析は未実施						H30.4		
	15	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	13664	1296	約30	19354	19442	97.2	99	97.6	98.9	タンクの分析は未実施						H30.4		
G1	※2	46	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約110	56559	60807	97.3	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						R1.11	
G4南	※2	14	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約30	17097	18506	97.2	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						R2.3	
H1	63	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	10539	1190	約140	74467	74969	97.2	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H27.3		
H1東	24	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10539	1190	約50	27653	28560	94.6	100	97.7	99	<2.2E-04	6.0E-04	7.5E-04	—	<4.4E-04	<1.2E-03	9.7E-04	H30.2	H28.4
H2	44	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	11330	2331	約180	101613	102569	97.2	100	97.7	99	<1.8E-04	1.0E-04	3.8E-04	—	6.7E-04	<9.7E-04	4.6E-04	H30.4	H28.10
H4北	35	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10366	1169	約80	40753	40931	97.4	100	97.7	99	<1.3E-04	1.7E-04	5.5E-04	—	4.7E-04	<1.0E-03	6.2E-03	H30.5	H29.7
H4南	13	1060	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	13190	1034	約20	13438	13424	97.7	100	97.7	99	<1.5E-04	<9.0E-05	1.1E-03	—	6.8E-04	<1.1E-03	2.7E-04	H30.5	H29.12
	38	1140	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13010	1112	約70	42062	42249	97.6	100	97.7	98.9	タンクの分析は未実施						H30.4		
H6(I)	11	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10368	1169	約20	12785	12864	97.1	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H30.8		
H6(II)	24	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約60	31605	31725	97.5	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H30.12		
H5	32	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	10368	1169	約70	37152	37423	97.1	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H30.9		
H9	10	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	10796	1322	約20	13151	13219	97.2	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H30.11		
B	10	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13674	1297	約20	12915	12975	97.5	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H30.12		
	27	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13272	682	約30	17786	18413	97.2	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H30.10		
B南	7	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13674	1297	約10	9054	9082	97.4	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H30.10		
H8北	5	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	S-処理水等(C)	9477	1069	約10	3200	5344	58.5	100	97.7	99	1.3E-01	5.7E-01	2.7E-01	3.6E-02	6.4E+00	—	2.2E+02	H27.3	H25.4
H8南	11	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	S-処理水等(R)	9477	1069	約20	2527	11757	21.0	100	97.7	99	<5.1E-02	1.2E-01	2.1E-01	2.0E-02	3.8E+00	2.9E-01	9.1E+01	H27.3	
H9	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	RO処理水(淡水)	9880	1054	約310	2	5268	0.1	95	96.3	98.9	タンクの分析は未実施						H23.8		
H9西	7	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	RO処理水(淡水)	9880	1054	約610	581	7375	12.1	93	96.3	98.9	タンクの分析は未実施						H23.11		
J1	90	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設) ※1	9477	1069	約200	94628	96195	96.7	100	97.7	99	2.3E-01	1.1E+00	3.2E-02	<1.3E-02	4.4E-01	1.5E-01	1.3E+02	H28.1	H26.1
	2	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水 (高性能検証試験装置)	9477	1069	約30	1125	2138	51.4	100	97.7	99	タンクの分析は未実施								
	8	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	S-処理水等(C)	9477	1069	約90	114	8551	10.4	100	97.7	99	5.0E-01	2.2E+00	1.8E-01	<1.6E-02	7.1E-01	3.1E-01	6.2E+02	H28.1	
J2	42	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	12151	2500	約170	103981	104999	96.5	99	97.2	98.5	タンクの分析は未実施						H26.9		
J3	22	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	12101	2490	約90	54472	54773	96.5	99	96.8	98.1	タンクの分析は未実施						H26.10		
J4	30	2900	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	12604	2829	約130	84783	84882	98.0	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H26.10		
	5	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	11926	1131	約10	5501	5657	95.0	100	97.7	99	<3.3E-04	6.8E-04	5.9E-04	—	<4.4E-04	<1.2E-03	8.0E-04	H30.3	H28.2
J5	35	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	12001	1137	約70	39565	39789	92.0	94	92.2	93.5	タンクの分析は未実施						H26.8		
J6	38	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10366	1169	約90	44216	44431	97.4	99	97.6	98.9	タンクの分析は未実施						H26.12		
J7	42	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	10366	1169	約100	48932	49108	97.5	99	97.6	98.9	タンクの分析は未実施						H27.9		
J8	9	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	10747	682	約10	6124	6138	97.6	100	97.7	99	<1.9E-04	7.4E-04	5.5E-04	—	<4.9E-04	<1.3E-03	8.3E-03	H30.2	H28.4
J9	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10747	682	約20	8192	8183	97.9	100	97.7	99	<2.0E-04	2.6E-04	6.7E-04	—	7.0E-04	3.1E-03	2.3E-04	H30.3	H28.11
K1北	12	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	10366	1169	約30	13759	14031	96.0	99	97.6	98.9	タンクの分析は未実施						H27.1		
K1南	10	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	S-処理水等(R)	11926	1131	約20	521	11314	4.5	100	97.7	99	<6.4E-02	<2.6E-02	9.6E-02	<1.6E-02	6.6E+00	3.1E-01	1.7E+01	H27.9	H27.3
K2	28	1057	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	12780	1032	約30	16226	28888	96.5	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H28.7		
K3	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13280	683	約10	8162	8195	97.4	100	97.7	99	タンクの分析は未実施						H28.4		
K4	35	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	12410	972	約50	33900	34024	97.5	100	97.7	99	1.8E-04	7.1E-04	4.3E-04	—	3.2E-04	1.6E-03	5.9E-04	H29.10	H28.8
多核種除去 設備	4	1100	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	9750	1103	約30	1777	4411	97.5	100	97.5	99	タンクの分析は未実施						H25.3		
高性能多核 種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	12630	1199	約30	3411	3598	98.1	100	98.4	99.6	タンクの分析は未実施						H26.10		
増設多核種 除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	12630	1199	約30	1599	3598	98.4	100	98.4</										

汚染水等構内溜まり水の状況（2020.8.20時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
1-1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs134:<1.0E1 Cs137:2.1E1 全β:2.6E1 H3:1.0E2 (2015.11.2) 【1階】 Cs134:1.1E1 Cs137:4.0E1 全β:4.1E1 H3:1.1E2 (2015.11.2)	
1-2	2号機R/B	2号機R/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs134:200~340 Cs137:650~1100 全β:920~1900 Sr90:10~20 H3:ND(<100) (2015.1.16)	
2	5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約10,500 (2020.6時点)	Cs134:ND Cs137:2.2E1 (2020.7.1) 2.7E0 4.7E1 (2020.7.10)	5・6号建屋滞留水・RO処理水を貯留 (5・6号機建屋滞留水処理設備として運用中のため、量は変動する)
3	5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約6000 (2020.3.12時点)	Cs134:7.7E0 Cs137:4.3E1 (2016.10.3)	5・6号建屋滞留水を貯留
4-1	吸着塔一時保管施設(HIC)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	0 (ボックスカルバート内の水は拭き取り実施済み、HIC内上澄み水水抜き実施済み) (2018.9)	—	水抜き済
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs137:2.0E3~1.6E7 Sr90:5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)	
5	No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	・No.1ろ過水タンク(RO濃縮塩水/溶接タンク)	屋外(タンクエリア)	0 (2015年8月水抜き完了)	—	過去、RO濃縮水を貯留 現在は水抜き済
6	4000tノッチタンク(角型タンク)	・4000tノッチタンク	タンクエリア	0 (2018.5.7時点)	【3000tノッチタンク】 撤去済 【1000tノッチタンク】 水抜き済	水抜き済
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃廃水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	タンクエリア(Cエリア)	約65※1 (2019.2.1時点)	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs134:1.7E4 Cs137:2.5E4 全β:4.7E8 (2011.12.20)	蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1:全5タンクの水量を 実測して算出
8	淡水貯留タンク(G1エリア地下タンク)	・淡水貯留タンク(横置きタンク)	タンクエリア	— (2017.8時点)	—	撤去済
9	5・6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	5号機スクリーン近傍	約550	(2016.10.5) Cs134:ND Cs137:3.4E0	
		・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	(2016.10.5) Cs134:ND Cs137:3.7E0	
		・5号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	(2016.10.3) Cs134:3.0E0 Cs137:1.9E1	
		・6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	(2016.10.3) Cs134:1.5E0 Cs137:1.1E1	
10	1~4号機T/B屋根	・1号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs134:1.4E1 Cs137:2.5E2 全β:2.9E2 (2018.4.25)	
		・2号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs134:4.4E0 Cs137:4.8E1 全β:5.9E1 (2018.4.25)	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2020.8.20時点)

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
11	1号CSTタンク (溶接タンク)	・1号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約740 (2016.10.26)	Cs134: 2.9E+4 Cs137: 1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)	RO処理水を貯留
12	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1850 (2020.3.19)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 (2020.5.8) (2020.6.9) H3: 6.3E5 5.4E5 Sr90: ND ND 【2号CSTタンク貯留水】 Cs134: 1.6E+02 Cs137: 1.7E+03 (2018.12.14)	2020.3.18より炉注水源としての運用開始(1~3号機CST炉注水ポンプ水源として運用中のため、量は変動する)
13	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1800 (2020.1.16)	全β: 1.5E+03 (2018.12.19) 【3号CSTタンク貯留水】 (2015.7.16) (2020.7.16) Cs134: 2.1E+3 1.9E+2 Cs137: 8.0E+3 3.5E+3 全β: 6.3E+3 H3: 7.9E+5	RO処理水を貯留(1~3号機CST炉注水ポンプ水源として運用中のため、量は変動する)
14	4号CSTタンク (溶接タンク)	4号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	0	—	水抜き済
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.3E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.0E4 7.1E3 (2020.6.9) (2020.8.4) H3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.1E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 7.6E3 6.4E3 (2020.6.10) (2020.8.5) H3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.2E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.8E4 1.4E4 (2020.6.12) (2020.8.7) H3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 2.8E4 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
19	地下貯水槽	地下貯水槽No. 5	タンクエリア	撤去完了	【使用実績なし(水張試験のみ)】 —	撤去済
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 7.8E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 4.5E1 (2019.9.5) H3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.5E2 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
22	1~4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約1~170 (2019.12)	Cs134: ND~4.2E2 Cs137: 2.5E2~6.9E3 全β: 2.2E2~3.4E3 H3: ND~3.5E3 (2019.12)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2019年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照

汚染水等構内溜まり水の状況（2020.8.20時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
23	2～4号機DG連絡ダクト	・2～4号機DG連絡ダクト	2～4号機山側	約1600 (2019.12)	Cs134:1.1E1 Cs137:1.6E2 全β: 1.9E2 H3: ND (2019.12.18)	
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋 海側	約400 (2019.12)	Cs134:ND Cs137:6.2E1 全β: 9.3E1 (2019.12.20)	
24-2	2号機海水配管トレンチ	・2号機海水配管トレンチ	2号機タービン建屋 海側	0 (2019.8.2時点)	—	水抜き・充填済 (建屋接続部近傍を含む)
25-1	3号機海水配管トレンチ	・3号機海水配管トレンチ	3号機タービン建屋 海側	0 ^(注) (2015.7.30時点) <small>(注)立抗D上部に水が無いことを 確認(2019.12.2時点)</small>	—	充填済 (立抗D上部を除く) 立抗D上部充填作業一時 中断中
25-2	4号機海水配管トレンチ	・4号機海水配管トレンチ	4号機タービン建屋 海側	0 ^(注) (2015.12) <small>(注)建屋接続部及び建屋接続部近 傍の開口部に水が無いことを確認 (2019.9.27時点)</small>	—	充填済 (建屋接続部近傍及び建 屋接続部近傍の開口部 を含む)
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約830 (2019.12)	Cs134:4.8E1 Cs137:4.0E2 全β: 4.4E2 H3: ND (2017.10)	
27	廃棄物処理建屋間連絡ダクト	・廃棄物処理建屋間連絡ダクト	プロセス主建屋北 側	充填完了		充填済
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1-4号機周辺	約1～830 (2018.12)	Cs134:ND～2.3E1 Cs137:7.0E0～2.7E2 全β:5.4E1～7.2E2 H3:ND～1.7E3 (2018.11～2019.1)	量及び放射性物質濃度 の内訳は添付資料(2) 「2018年度トレンチ等内 溜まり水調査結果一覧」 を参照
29	1～4号機サブドレンピット No.15,16(未復旧ピット)	・サブドレンピットNo.15,16	1～4号機周辺 「未復旧」	約20	No.16 Cs134:2.8E4 3.1E4 Cs137:5.6E5 6.5E5 全β:6.2E5 6.9E5 H-3:8.5E3 8.3E3 (2020.5.20) (2020.7.15)	
30	その他1～4号機サブドレン(デー ブウェル含む)(未復旧ピット)	・1号機～4号機サブドレン	1～4号機周辺 「未復旧」	約15/ピット	No.47,48 Cs134:ND～3.9E1 Cs137:4.8E1～9.6E1 全β:7.9E1～2.8E2 H-3:ND (2014.11.10)	

汚染水等構内溜まり水の状況（2020.8.20時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
31-1	1～4号機逆洗弁ピット	・1号機逆洗弁ピット	1号タービン建屋海側	0 ^(注) (2019.12.5時点) (注)一部残水あり	(2018.12.17) Cs134:1.4E3 Cs137:1.7E4 全β:2.0E4 H3:1.6E2	一部残水を除き水抜き完了 充填作業中
		・2号機逆洗弁ピット	2号タービン建屋海側	0 ^(注) (2020.1.23時点) (注)一部残水あり	(2018.12.21) Cs134:3.9E1 Cs137:5.0E2 全β:5.8E2 H3:1.6E2	一部残水を除き水抜き完了
		・3号機逆洗弁ピット	3号タービン建屋海側	0 (2019.3.28)	—	水抜き・充填済
		・4号機逆洗弁ピット	4号タービン建屋海側	約1400 (2018.12.12)	(2018.12.12) Cs134:6.7E1 Cs137:8.2E2 全β:1.0E3 H3:1.2E2	
31-2	1～4号機吐出弁ピット	・1号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	1号タービン建屋海側	0 (2015.11)	—	水抜き・充填済
		・4号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	4号タービン建屋海側	0 (2015.10)	—	水抜き・充填済
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1～4号タービン建屋海側	約4200 (2018.12.17)	【放水路上流側立坑】 (2020.7.20) (2020.8.17) Cs134:5.3E1 5.4E1 Cs137:9.4E2 9.7E2 全β:1.1E3 1.2E3 H3:ND ND	
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2～4号機タービン建屋海側	約3600 (2018.12.14)	【放水路上流側立坑】 (2020.7.20) (2020.8.17) Cs134:4.6E1 3.3E1 Cs137:8.2E2 6.7E2 全β:1.0E3 9.4E2 H3:ND ND	
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3～4号機タービン建屋海側	約1600 (2018.12.17)	Cs134:3.7E1 Cs137:6.1E2 全β:6.9E2 H3:ND (2020.7.1)	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4500	Cs134:7.2 Cs137:23 I-131:<4.3 Co-60:<4.2 全γ放射能:3.1E+1 (2014.5.23)	
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1100 (2020.1.10)	(2020.6.10) (2020.7.9) Cs134:ND ND Cs137:ND ND Co60:3.1E2 2.9E2	プラント保有水を貯留 (プラント系統として運用 中のため量は変動する)
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1750 (2020.1.10)	(2020.7.1) Cs134:ND Cs137:ND Co60:ND	プラント保有水を貯留 (プラント系統として運用 中のため量は変動する)
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機スチームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5～6号機周辺	約1～1900 (2015.10～2016.1)	Cs134:ND～2.2E2 Cs137:ND～9.9E2 (2015.10～2016.1)	

汚染水等構内溜まり水の状況（2020.8.20時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
39	5, 6号機サブドレン	・5,6号機サブドレンピット	5～6号機周辺 ※「復旧対象」	約15/ピット	Cs134: ND Cs134: ND～3.5 全β: ND～4.8 H-3: ND～140 (採水期間: 2017.10～2018.3)	
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs134: 1.0E+1 Cs137: 1.4E+1 Co-60: <6.0E-01 全γ放射能: 2.4E+1 (2012.1.18)	
41	SPTタンク(1～4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1～4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2800 (2015.3.25時点)	Cs134: 8.0E+4 Cs137: 1.6E+5 Co60: 6.5E+2 (2013.8.27)	プラント保有水等を貯留
42	集中ラド周りサブドレン	・集中ラド周りサブドレン	主プロセス建屋等 各建屋周辺	約15/ピット	Cs134: ND Cs137: ND～5.5E1 (2020.7.22) ND ND～5.9E1 (2020.8.19)	
43	メガフロート	・メガフロート	港湾内	0 (2020.2.20)	No.5VOID Cs134: ND Cs137: 2.7 Sr90: ND H3: ND (2017.2.16)	水抜き完了
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(建屋エリア)	約850	Cs134: 2.1 Cs137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)	震災後、坂下ダム補給水を貯留
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5～6号機	約6,640 (2020.6.18時点)	【5号機】 Cs134: ND ND Cs137: ND 1.1E0 H3: ND ND 全β: ND ND (2020.6.16) (2020.7.14) 【6号機】 Cs134: ND ND Cs137: 2.1E0 6.1E0 H3: 1.4E2 1.4E2 全β: ND 2.0E1 (2020.6.19) (2020.7.17)	
46	排気筒ドレンサンプピット	・1/2号排気筒ドレンサンプピット	1～4号機周辺	約0.3 [※] ※適宜溜まり水の移送を実施	(2020.6.29) 全β: 1.8E7 Cs134: 9.9E5 Cs137: 2.0E7	2019.10.12以降に水位低下傾向が見られることを確認。 (2019.11.27)
		・3/4号排気筒ドレンサンプピット	1～4号機周辺	約2	(2019.12.24) 全β: 7.8E2 Cs134: 3.7E1 Cs137: 5.8E2	
		・5/6号排気筒ドレンサンプピット	5/6号機周辺	約7.6 (2020.3.12)	(2020.3.12) 全β: 2.2E1 Cs134: ND Cs137: 2.0E1	
		・集中RW排気筒ドレンサンプピット	1～4号機周辺	約10	(2020.5.20) 全β: 2.7E2 Cs134: ND Cs137: 2.2E2	
47	固体廃棄物貯蔵庫(6～8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6～8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫 (6～8号棟)	約200	Cs-134: ND Cs-137: 5.3E+1 全β: 4.8E+1 (2017.11.10)	

汚染水等構内溜まり水の状況（2020.8.20時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
48	5, 6号機海側屋外既設タンク	SPTタンク(5~6号)	物揚場 北側	<タンク> 0 (2019.11.21) <雨仕舞> 0 (2019.12.5) <ポンプ室> 0 (2019.12.12)	—	水抜き完了

タンク建設進捗状況

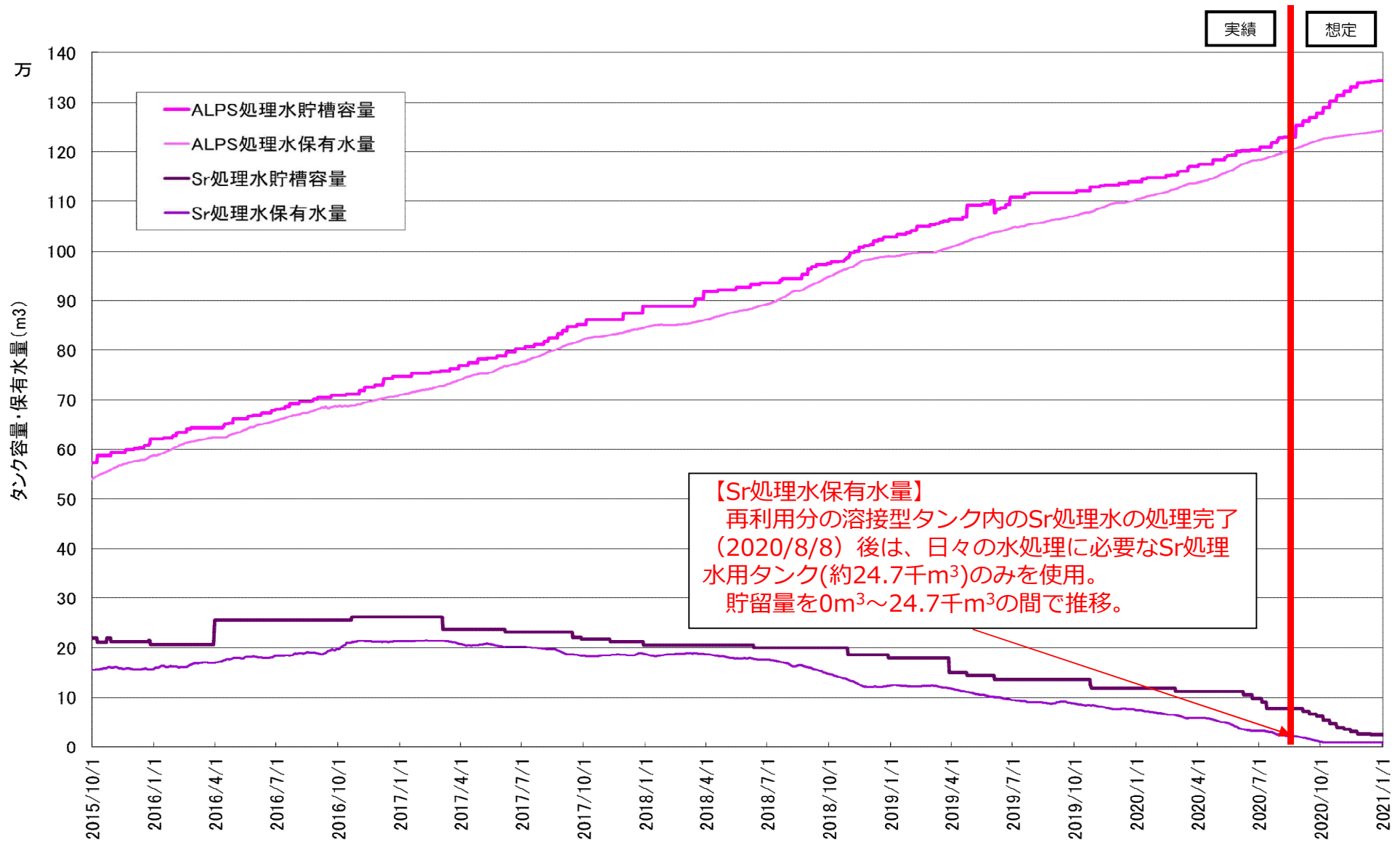
2020年8月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1-1. タンク容量と貯留水量の実績と想定

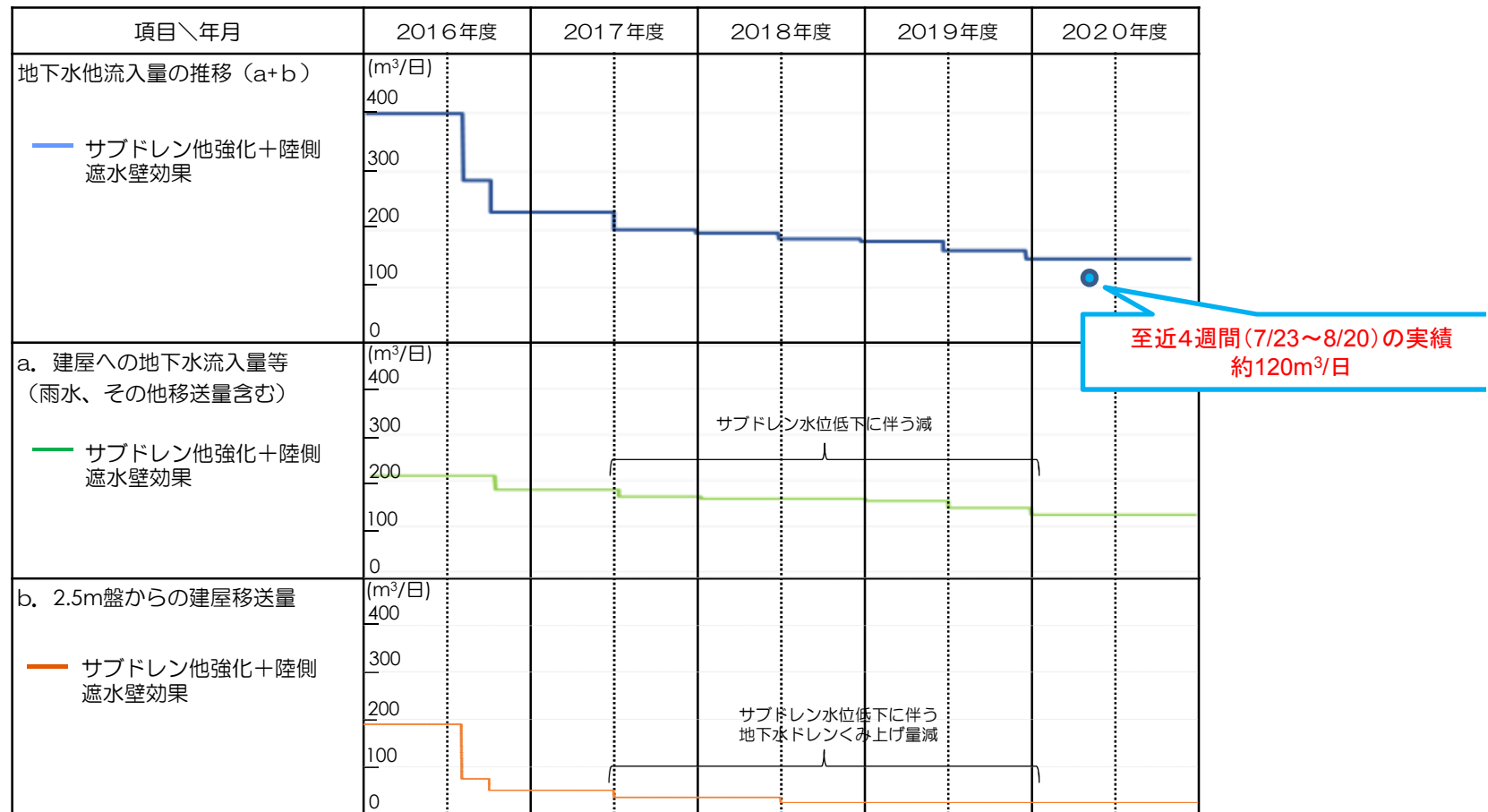
水バランスシミュレーション (サブドレン他強化+陸側遮水壁の効果)



1-2. 貯留水量の想定に用いる地下水他流入量の想定条件と至近の実績

水バランスシミュレーションの前提条件

➤ サブドレン+陸側遮水壁の効果を見込んだケース



2-1. 溶接タンク建設状況

タンクリプレースによる溶接タンク建設容量の計画と実績は以下の通り（～2021年3月）

溶接タンクの月別建設計画と実績

下線は計画

単位：千m³

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
2019	26.9	10.0	31.0	9.1	0	0	11.9	4.0	6.6	7.9	5.3	10.6	123.3
2020	13.2	10.6	2.7	11.9	<u>9.3</u>	<u>7.9</u>	<u>9.3</u>	<u>13.2</u>	<u>3.9</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>82.0</u>

タンク容量の確保計画と実績（全体※1）

	計画 (2020.12.31時点)	実績※2 (2020.8.20時点)	タンク容量確保目標 約1050m ³ /日(約320m ³ /日※3) (2020/8/20～2020/12/31) [建設・再利用合計]
タンク総容量	約1,368千m ³	約1,228千m ³ (約1,325千m ³ ※3)	

※1：水位計0%以下の容量（約2.1千m³）及び日々の水処理に必要なSr処理水用タンク（約24.7千m³（既設置））を含む

※2：「福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の貯蔵及び処理の状況について（第465報）」にて計算

※3：Sr処理水用タンクからALPS処理水用タンクとして再利用する分（約97千m³（既設置））を含む

2-2. タンク進捗状況

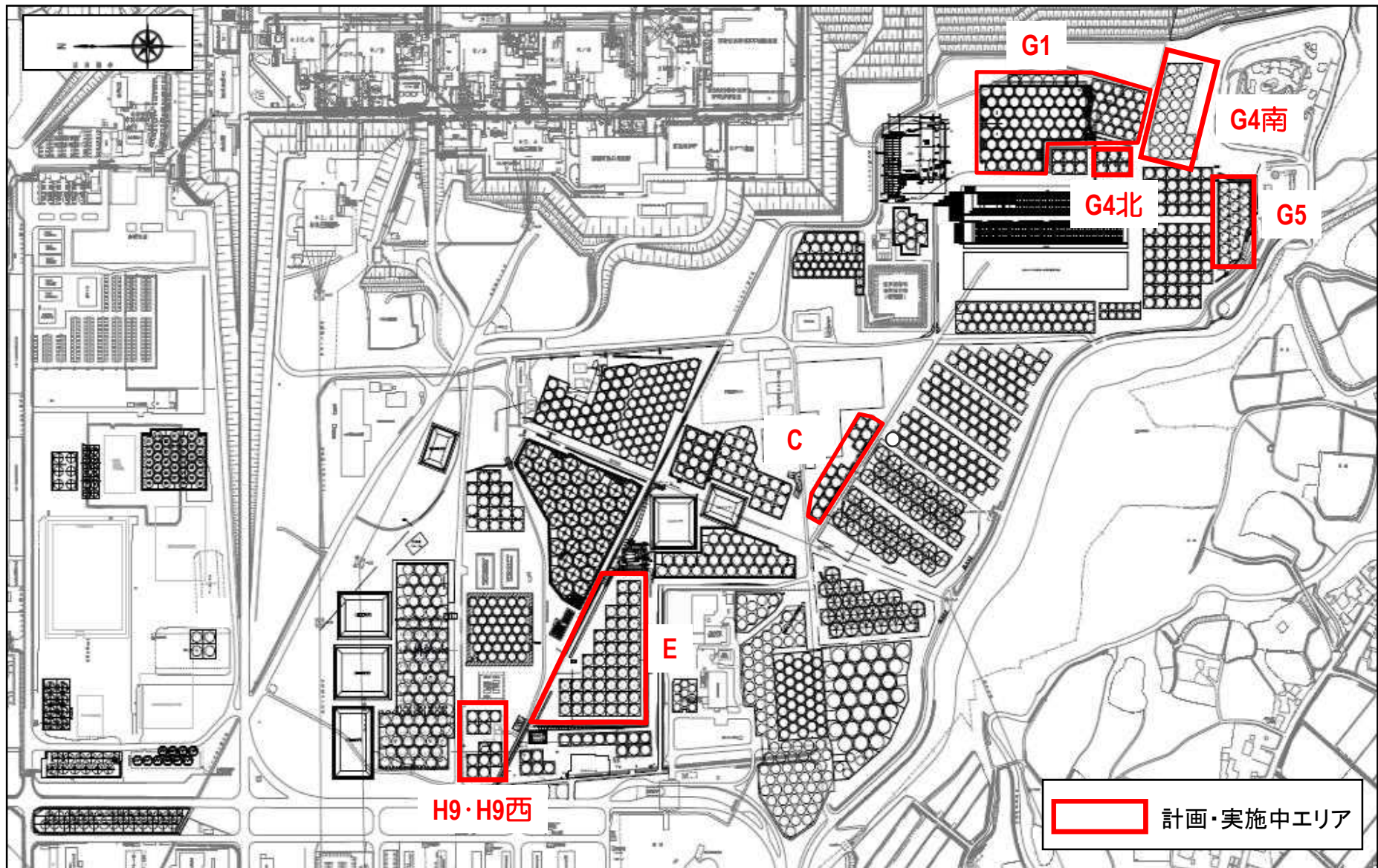
1. タンク建設・解体関係

エリア	全体状況
C・E	C西：2019/10/27 フランジタンクの解体作業着手。 2020/4/27 フランジタンク解体・撤去完了。 C東：フランジタンクの解体作業中。 E：フランジタンクの解体作業中。
G1	2019/2/27 鋼製横置きタンク撤去完了。 2019/4/1 溶接タンク設置開始。 2020/2/3 基礎構築完了 タンク設置実施中。
G4南	2018/9/13 フランジタンクの解体作業着手。 2019/3/21 フランジタンク解体・撤去完了。 2019/12/1 溶接タンク設置開始 2020/3/4 基礎構築完了 タンク設置実施中。
G4北・G5	G4北：2020/5/14 フランジタンクの解体作業着手 2020/7/30 フランジタンク解体・撤去完了。 G5：2020/7/2 フランジタンクの解体作業着手

2. 実施計画申請関係

エリア	申請状況
H9・H9西	タンク解体分 2020/7/8 実施計画認可

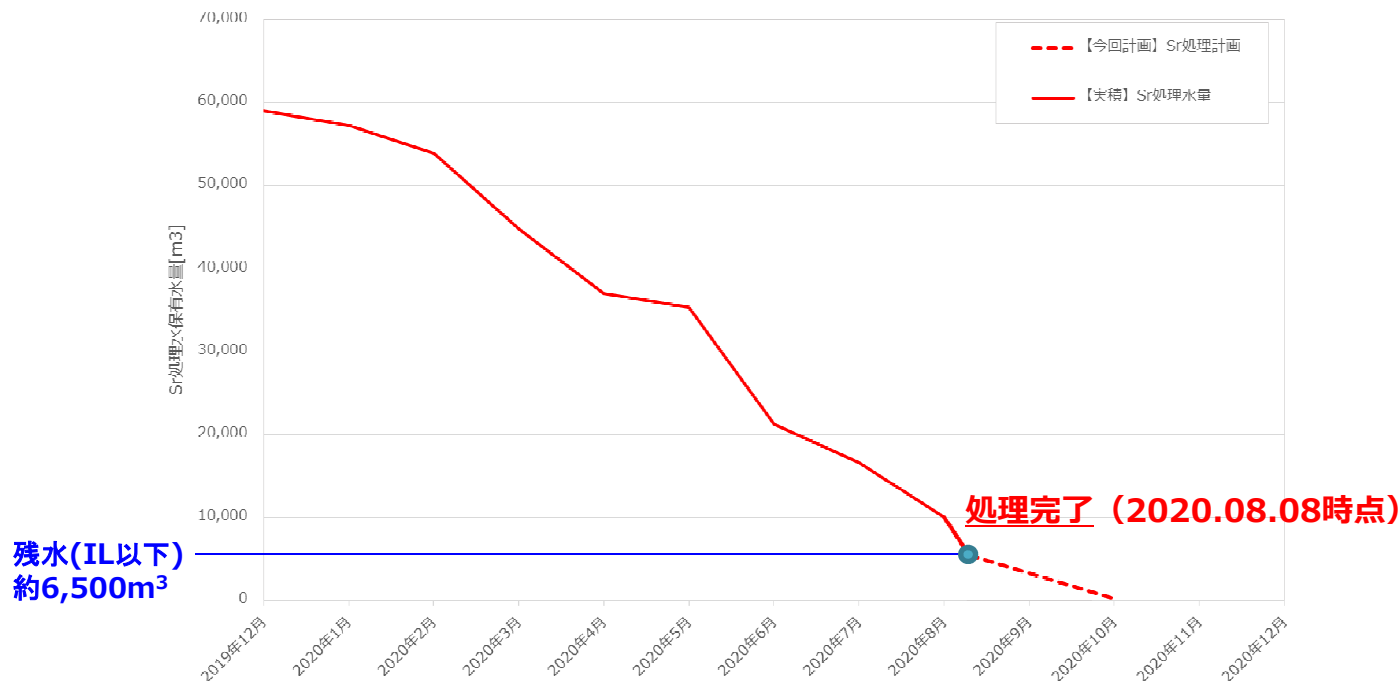
【参考】タンクエリア図



【参考】 Sr処理水処理完了以降の対応

- ポンプインターロック（ポンプ自動停止）以下の残水 約6,500m³を除きSr処理水の処理を2020年8月8日に完了しました。

Sr処理水保有水量



- Sr処理水の処理が完了した事から、『多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会報告書を受けた当社の検討素案について』（2020.3.24当社公表）で示した高濃度のALPS処理水（告示濃度比総和100以上）の二次処理の性能確認（約2,000m³処理）を2020.9以降着手し、ALPSによってトリチウムを除き告示濃度比総和1未満が達成できることを検証する。（2021.1頃に分析・評価が終了する予定）
- 二次処理後のALPS処理水は、新設タンクに受け入れ。

福島第一原子力発電所 溶接型タンクに貯留している
ストロンチウム処理水の処理完了について

< 参 考 資 料 >
2020年8月11日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- フランジ型タンクに貯留しているストロンチウム処理水（以下、「Sr処理水」）および多核種除去設備等処理水（以下、「ALPS処理水」）については、より信頼性の高い溶接型タンクへの移送が完了し、中長期ロードマップにおけるマイルストーン「2018年度内に浄化設備等により浄化処理した水の貯水を全て溶接型タンクで実施」を達成しています。

[<2019年3月27日お知らせ済み>](#)

- 溶接型タンクに貯留しているSr処理水のうち、日々の水処理に必要な「運用タンク」以外の水（「貯留タンク」の水）については、漏えい時のリスクを考慮し、2019年12月より、多核種除去設備による処理を優先的に進め、2020年8月8日に処理が完了※1しました。

※1 ポンプインターロック水位以下の残水 約6,500m³を除く

- 引き続き、安全を最優先に、汚染水対策を進めてまいります。

<処理水タンク一覧>

対象		容量	ステータス	
溶接型タンク	Sr処理水	運用タンク	約2.5万m ³	運用中
		貯留タンク※2	約9.7万m³	2020年8月8日 水抜き・処理完了
	ALPS処理水		約119.8万m ³ (2020.7.23時点※3)	貯留中

※2 ALPS処理水タンクとして再利用予定（一部は再利用中）
※3 再利用タンクは除く

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1,11,12}	保管容量 ^{※1,12}	管理方法		主要核種
							実施内容 ^{※9}	頻度	
III 第1編 39条 第2編 87条の2	瓦礫類	<ul style="list-style-type: none"> 地震、津波、水素爆発により飛散した瓦礫 フォールアウトにより汚染した設備・資機材で廃棄する物（建屋、制御盤、廃車両等） 設備の点検・工事により発生する交換品等（ポンプ、バルブ、配管、フランジタンク等） 設備運転に伴い発生する消耗品等（空調フィルタ等） 工事等のため構内に持ち込んだ消耗品（梱包材、型枠、セメント用空袋等） 回収した土壌 	屋外	・屋外集積【～0.1mSv/h】	212,900 m ³ [+900 m ³]	266,500 m ³ (291,200 m ³)	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	Cs-137 Cs-134 等 ^{※7}
				・シート養生【～1mSv/h】	42,800 m ³ [微増 m ³]	71,000 m ³ (71,000 m ³)	・巡視を行い、容器の転倒、落下や養生シートに破れがないこと、その他異常が無いことを確認	週1回	
				・覆土式一時保管施設、容器収納【1mSv/h～30mSv/h】	17,900 m ³ [0 m ³]	24,600 m ³ (24,600 m ³)	・空間線量率を測定し表示	週1回	
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納	22,500 m ³ [+100 m ³]	48,000 m ³ (80,000 m ³)	・空気中の放射性物質濃度を測定	6ヶ月に1回 ^{※2}	
			瓦礫類の合計		296,000 m ³ [+1,000 m ³]	410,000 m ³ (466,700 m ³)	・槽内の溜まり水の有無を確認（覆土式一時保管施設）	週1回	
	使用済保護衣等	<ul style="list-style-type: none"> タイベック 下着類 ゴム手袋 その他保護衣、保護具 	屋外	・容器収納	37,800 m ³ [-3,600 m ³]	68,300 m ³ (74,500 m ³)	・煙、水蒸気、濁り水（黒・茶色）、空気の揺らぎが発生していないこと（屋外集積の伐採木）	週1回 ^{※3}	
			建屋	・袋詰め					
	伐採木	<ul style="list-style-type: none"> 枝葉根 幹根 	屋外	・伐採木一時保管槽	37,300 m ³ [0 m ³]	41,600 m ³	・伐採木一時保管槽における温度監視	週1回 ^{※3}	
				・屋外集積	400 m ³ [微増 m ³]	6,000 m ³	・保管量を確認し、保管容量が確保されていることを確認	月1回	
				96,600 m ³ [微増 m ³]	128,000 m ³				
伐採木の合計			134,300 m ³ [微増 m ³]	175,600 m ³ (175,600 m ³)					
III 第1編 40条 第2編 87条の3	水処理二次廃棄物（水処理により放射性物質を濃縮した廃棄物）	凝集沈殿物	廃スラッジ貯蔵施設	・造粒固化体貯槽【除染装置】	421 m ³ [+2 m ³]	700 m ³	・免震重要棟にて液位を監視し、漏えいの有無を監視	常時	Cs-137 Cs-134 Sr-90等
			使用済セシウム吸着塔一時保管施設	・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約13mSv/h）	3,567 本 [+38 本]	4,192 本	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	
		・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約23mSv/h）				・空間線量率を測定し表示	—		
		・吸着塔【第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置、高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約1.2mSv/h）		348 本 [+2 本]	584 本	・巡視を行い、コンクリート製ボックスカルバート等に異常が無いことを確認	—		
		・処理カラム【多核種除去設備】（最大約0.2mSv/h）				・貯蔵量を確認し、貯蔵可能容量が確保されていることを確認	週1回		
		・吸着塔【セシウム吸着装置、モバイル式処理装置、モバイル型Sr除去装置、第二モバイル型Sr除去装置、サブドレン他浄化装置、高性能多核種除去設備検証試験装置】（最大約250mSv/h）		971 本 [0 本]	1,596 本				
		フィルタ	容器収納【モバイル型Sr除去装置】（最大約0.5mSv/h）			瓦礫類に含む	瓦礫類と同様		
			屋外	・容器収納【高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約0.5mSv/h）					
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【サブドレン他浄化装置】 ・容器収納【雨水処理設備等】（1mSv/h未満）					
		RO装置のフィルタ類	屋外	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）		瓦礫類に含む	瓦礫類と同様		
樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h） ・容器収納【雨水処理設備等】（最大2mSv/h）		瓦礫類に含む	瓦礫類と同様				

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 12}	管理方法		主要 核種
							実施内容 ^{※9}	頻度	
Ⅲ 第1編 38条 第2編 87条	放射性固 体廃棄物 等	・震災前に発生した放射性固体廃棄物 ・震災後に発生した放射性固体廃棄物 (焼却灰等)	固体廃棄 物貯蔵庫	・ドラム缶収納	ドラム缶 175,661 本	ドラム缶 (約252,700本相 当)	・巡視による保管状況の確認及び保管量 の確認	月1回	Co-60 等
				・その他	ドラム缶 10,155 本				
				・ドラム缶収納	1,976 本 [+103 本]				
		・使用済制御棒等	サイトバ ンカ	・水中保管	12,125 本 193 m ³ ^{※4}	—	・事故前の保管量の推定値により確認	3ヶ月に1 回	
							・プール水位の確認	月1回	
		・イオン交換樹脂、造粒固化体	タンク等	・タンク等に貯蔵	3,534 m ³ ^{※5}	—	・貯蔵量の確認 ^{※8}	3ヶ月に1 回	
・使用済制御棒等	使用済燃 料プール	・水中貯蔵	11,422 本 ^{※6}	—	・使用済燃料共用プールの巡視	月1回			
					・使用済燃料共用プールの貯蔵量の確認	3ヶ月に1 回			
— ^{※10}	瓦礫等	・回収した土壌	—	3,900 m ³ [1,800 m ³]	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	Cs-134 Cs-137 等		
		・回収した土壌以外の瓦礫等	屋外	—				9,500 m ³ [1,000 m ³]	
			建屋	—				2,300 m ³ [0 m ³]	
	水処理二 次廃棄物	・樹脂、ゼオライト、RO膜等	—	200 m ³ [微減 m ³]	Cs-137 Cs-134 Sr-90等				
仮設集積の合計				—		16,000 m ³ [2,800 m ³]			

※1 瓦礫類、使用済保護衣等、伐採木、仮設集積物、震災後に発生した放射性固体廃棄物（焼却灰等）は2020年6月30日現在、水処理二次廃棄物は2020年8月6日現在の保管量及び保管容量である。尚、瓦礫類、使用済保護衣等及び伐採木の下段に（ ）で記載している保管容量は、実施計画（2020年7月14日認可）に記載している保管容量である。

※2 屋外集積及びシート養生の瓦礫類、使用済保護衣等、並びに屋外集積の伐採木は、3ヶ月に1回。

※3 6月～9月は、1週間に3回。

※4 2020年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：1,167本、チャンネルボックス：9,818本、ヒューエルサポート：3本、中性子検出器：1,137本、その他（シュラウド切断片等）：193m³。

※5 2020年3月末時点の保管量。内訳は、イオン交換樹脂：2,386m³、造粒固化体：1,148m³。

※6 2020年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：281本、チャンネルボックス：10,539本、ポイズンカーテン：173本、ヒューエルサポート：54本、中性子検出器：375本。

※7 廃棄物の処理・処分に必要となる、廃棄物の性状把握のため、汚染水、瓦礫類、伐採木及び立木について、放射能濃度分析を実施しており、今後も継続する。分析した試料の中には、C-14（半減期：約5.7×10³年）、Ni-63（半減期：約1.0×10²年）、Se-79（半減期：約1.1×10⁶年）、Tc-99（半減期：約2.1×10⁵年）、I-129（半減期：約1.6×10⁷年）等が検出されているものがある。

※8 1～4号機廃棄物処理建屋等の水没や高線量の理由によりアクセスできないタンクについてはこの限りではない。

※9 アンダーラインの実施内容は、実施計画（2020年7月14日認可）に未記載。

※10 仮設集積しているのは、伐採木、土壌、水処理二次廃棄物等であり、QJ-54・1F-R5-002 瓦礫等管理要領に基づき、ロープや柵等の区画を行い、立ち入りを制限する標識を掲示する措置を講じている。また、保管量については集積する最大の量である。

※11 []は、前回報告値との差を示している。

※12 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。

ガレキの保管量の現状（2020年6月30日時点）

屋外集積（0.1mSv/h以下）対象エリアの保管量^{※7}

受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア名称	保管容量 ^{※1、4} (m ³)	保管量 ^{※1} (m ³)	前回比 ^{※2} (m ³)
≤0.001	AA	36,400	14,200	+500
≤0.005	A2	9,500	— ^{※5}	— ^{※5}
	J	8,000	6,200	0
≤0.01	A1	4,300	— ^{※5}	— ^{※5}
	B	5,300	5,300	0
	C	31,000	31,000	0
≤0.025	C	31,300	31,300	微減
≤0.028	U	800	700	0
≤0.1	C	1,000	1,000	0
	F2	7,500	6,400	0
	N	10,000	9,600	0
	O	51,400	44,000	0
	P1	64,000	56,800	+500
	V	6,000	6,000	0
合計		266,500	212,900 ^{※6}	+900

2021年3月末瓦礫類想定発生量 ^{※3} (m ³)	260,100
--	---------

シート養生（1mSv/h以下）対象エリアの保管量^{※7}

受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア名称	保管容量 ^{※1、4} (m ³)	保管量 ^{※1} (m ³)	前回比 ^{※2} (m ³)
≤0.3	D	4,500	2,600	0
≤1	E1	16,000	14,300	0
	P2	9,000	5,800	0
	W1	23,000	9,700	微増
	W2	6,300	2,400	0
	X	12,200	7,900	0
合計		71,000	42,800	微増

2021年3月末瓦礫類想定発生量 ^{※3} (m ³)	70,700
--	--------

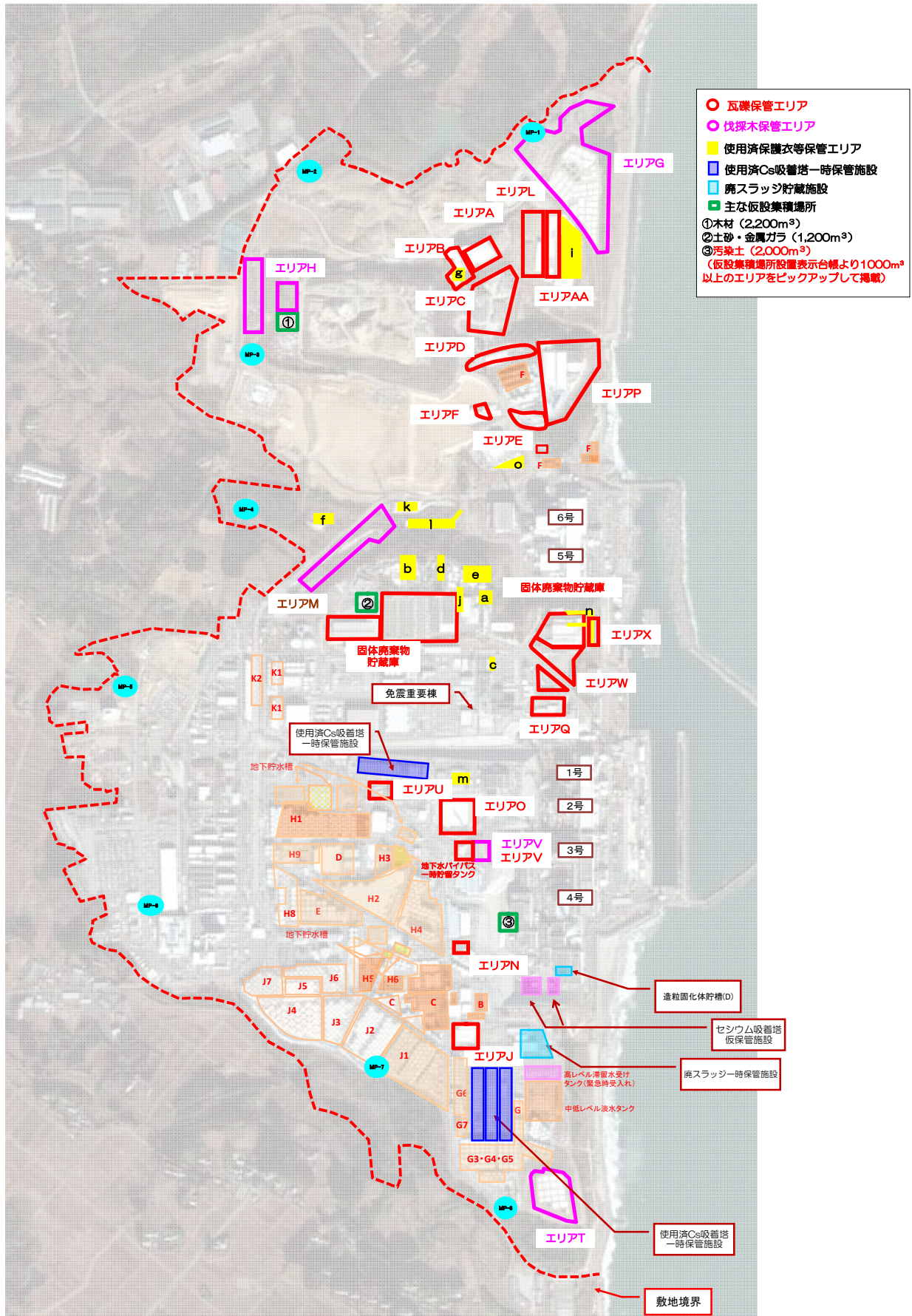
30mSv/h以下対象エリアの保管量^{※7}

受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア名称	保管容量 ^{※1、4} (m ³)	保管量 ^{※1} (m ³)	前回比 ^{※2} (m ³)
≤5	Q	6,100	0	0
≤10	F1	700	600	0
	E2	1,800	1,200	0
≤30	L	16,000	16,000	0
合計		24,600	17,900	0

2021年3月末瓦礫類想定発生量 ^{※3} (m ³)	28,500
--	--------

- ※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
- ※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは50m³未満の増減を示す。
- ※3 瓦礫類の保管量（想定）は、実施計画（2020年7月14日認可）の予測値を示す。
- ※4 瓦礫類の保管容量は、運用上の上限を示す。
- ※5 エリアA1及びA2は低線量エリアとした（2020年1月6日認可）が、移行期間のため「—」と記載。
- ※6 エリアA1及びA2は1～30mSv/hの瓦礫類を仮設集積中。合計値には、この仮設集積分を含む。
- ※7 各受入目安線量率において、固体廃棄物貯蔵庫の保管量は除いて記載。

福島第一原子力発電所 固体廃棄物等保管エリアの構内配置図



SARRY装置自動停止事象に伴う 調査結果について

2020年8月28日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 事象の概要

■ 概要

2020年7月21日18:09分、「工程異常」警報他が発生し、SARRY装置が自動停止した。

■ 時系列

18:09 SARRY自動停止

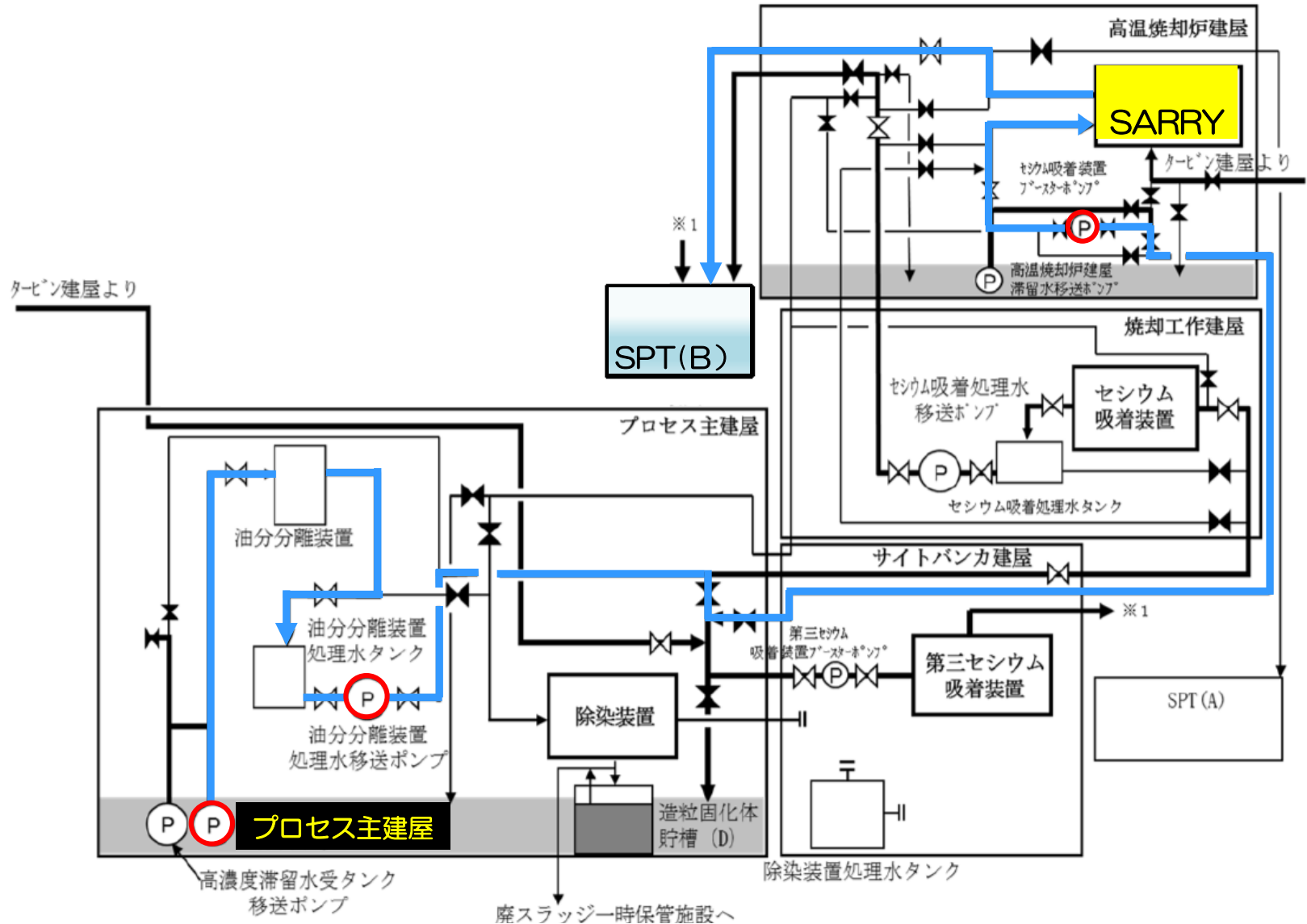
- 油分分離装置廻りの弁状態（18台）が「中間開」表示であることを確認

18:41 SARRY停止状態に異常なし、漏えいなしを確認

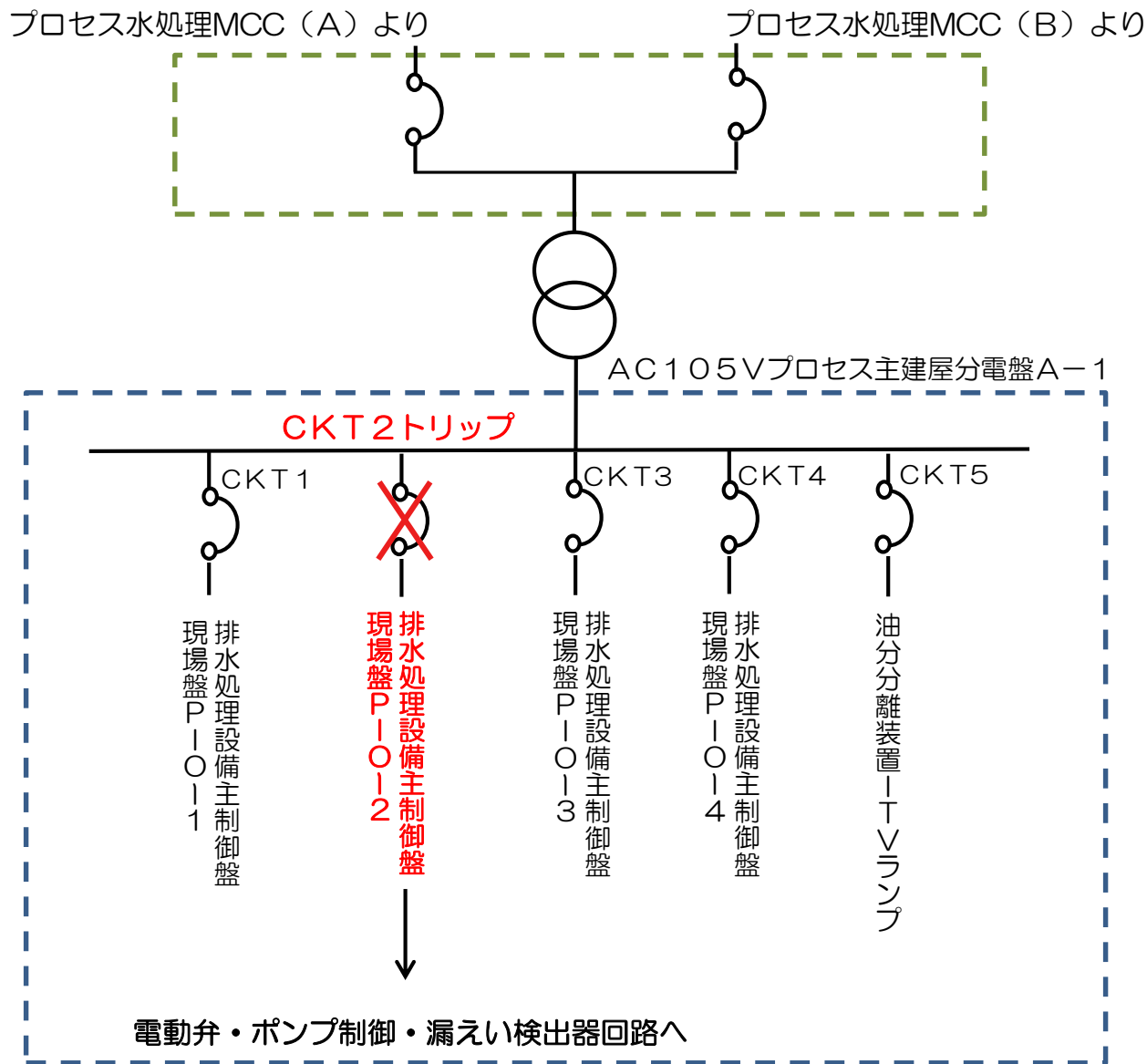
18:57 現場調査を実施

AC105Vプロセス主建屋分電盤A-1を確認したところCKT2の漏電遮断器（ELB）が中間位置（トリップ状態）であることを確認

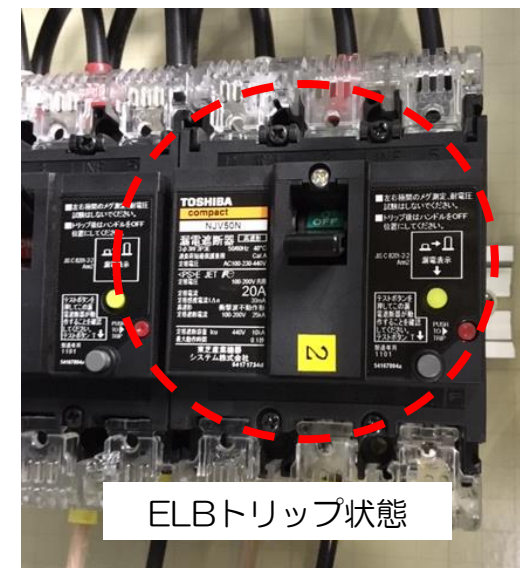
2. 7/21 SARRY装置自動停止時の運転系統図



3. 分電盤電源構成図および漏電しゃ断器動作状況



分電盤外観状況



CKT2：排水処理設備主制御盤
現場盤

4. 要因分析と調査結果

AC105Vプロセス主建屋分電盤A-1_CKT2漏電遮断器（以下、ELBという）トリップに対する要因分析および調査結果を以下に示す。

事象	想定される要因	調査内容	調査結果	調査日	原因の可能性
ELB トリップ 事象	盤内の環境悪化による ELB動作	外観目視点検による確認	異常なし	7/22	×
	ELBの誤動作 (単体不良)	ELBの単体試験	異常なし 30mA設定(24mA動作※) ※：動作値は設定値の50%以上、設定値以内	7/28	×
	負荷側の漏電による ELB動作	負荷側の漏電電流測定	5.6mAの 漏電電流あり	7/22	△

△：原因として可能性を否定できない ×：原因として可能性がない

5. 実運転による漏電電流測定結果

8/6に実運転による負荷側回路の漏電電流測定を実施した。

なお、調査に際しては、ELBの感度電流を30mA→100mAへ交換を行った。

その調査結果を以下に示すが、漏えい検出器・ポンプ制御回路に異常はなく、電動弁制御回路に漏電電流が確認された。

ただし、ELBがトリップに至るような漏電電流値※ではないことを確認した。

※：トリップに至る漏電電流値（交換前の感度電流30mA、実動作値24mA）

測定箇所	測定結果	原因の可能性
漏えい検出器回路	漏電電流なし	×
ポンプ制御回路	漏電電流なし	×
電動弁制御回路	6.3mAの漏電電流あり (油分分離装置用電動弁3台に各1mA程度の漏電電流を確認)	△

△：原因として可能性を否定できない ×：原因として可能性がない

6. 調査結果を踏まえた今後の対応

□ 調査結果（総括）

電動弁の制御回路に漏電電流が確認されたものの、トリップ値に至るような電流値は確認されず、7/21にELBがトリップした原因については特定出来なかった。

ただし、当該設備が設置されている箇所については、湿潤環境下であり、何らかの環境の影響によって漏電電流測定が変動している可能性は否定できない。

また、当該電動弁については、高線量下に設置されているため、現場における詳細な調査は困難であると考えます。

□ 今後の対応について

現在、原因の特定には至っていないため、漏電電流監視モニタを設置し、継続的な監視・データ採取を行い、漏電電流の変動状況を確認する。

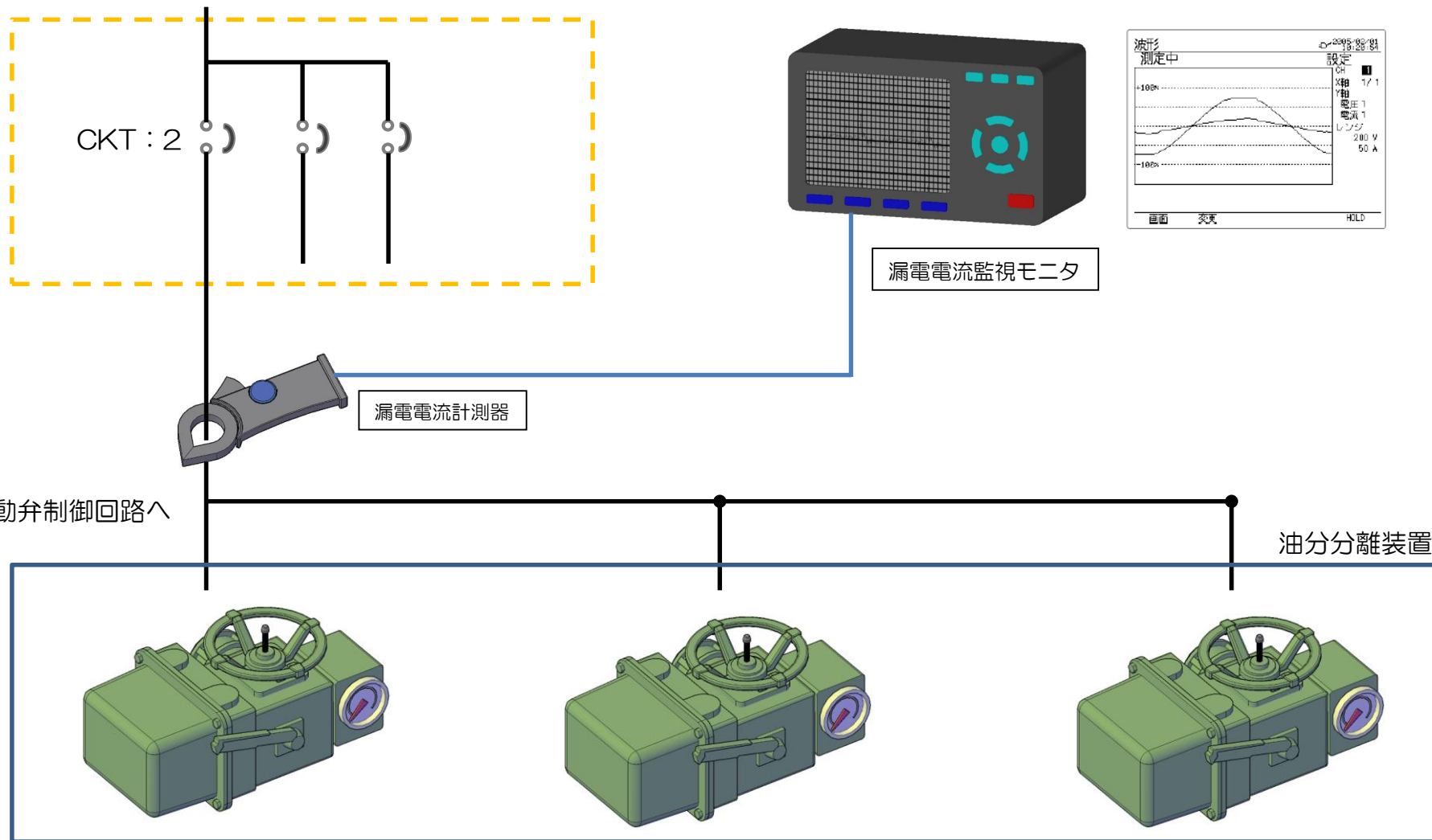
なお、ELBについては継続監視中のため、100mA設定のままとする。

□ その他（汚染水処理について）

継続的な監視を実施することで、PMBを水源とした汚染水処理については可能と判断している。

(参考) 漏電電流監視モニタ設置イメージ図

AC105Vプロセス主建屋分電盤A-1



既設多核種除去設備 A/Cの応急復旧について

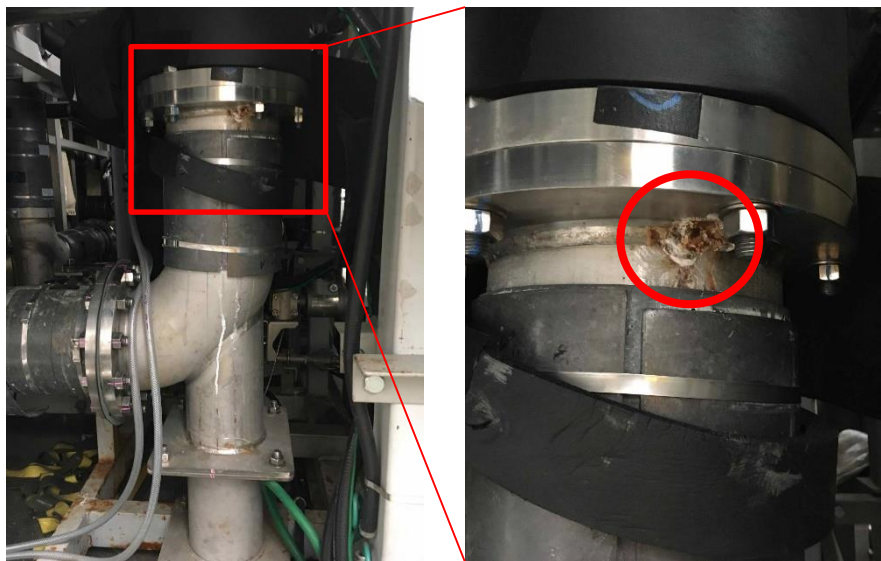
2020年8月28日

東京電力ホールディングス株式会社

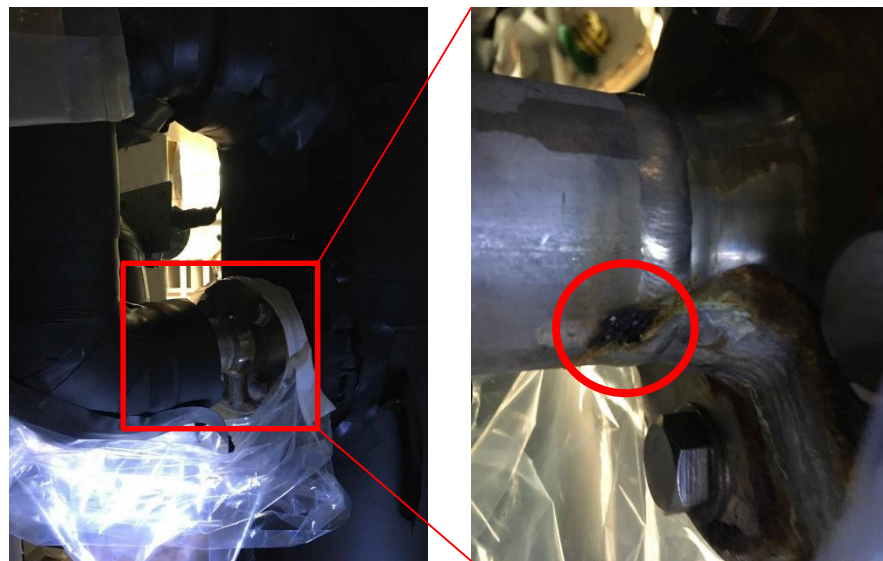
多核種除去設備で確認された腐食孔の概要

■ 概要

- 2020年7月9日、多核種除去設備（既設ALPS）建屋内のクロスフローフィルター2C二次側出口配管下部に水溜りを確認（協力企業員がパトロール中に発見）。調査の結果、腐食孔（ピンホール）からの漏えいである事を確認した。
- 同日、既設ALPS クロスフローフィルタ2A一次側出口配管についても、滲み跡を発見した。調査の結果、腐食孔（ピンホール）と思われる箇所を確認した。



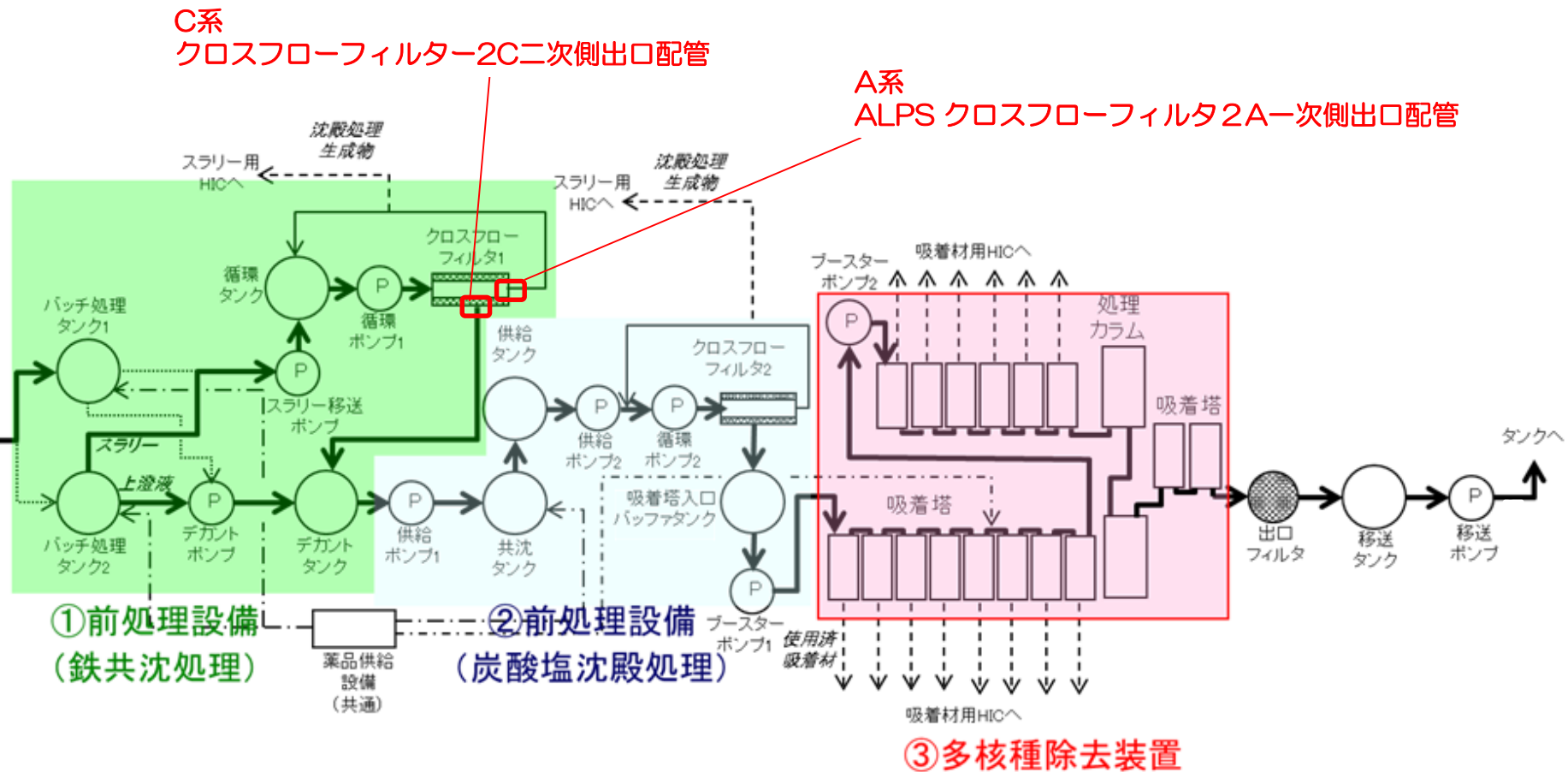
ピンホール発生箇所（C系）



ピンホール発生箇所（A系）

腐食孔確認箇所 of 系統概要

■ 多核種除去設備（既設ALPS） 系統概要図



推定原因

■ 推定原因

【A系】ALPS クロスフローフィルタ2A一次側出口配管

- 腐食孔が確認されたのは、既設ALPS 前処理ステージ1（鉄共沈処理設備）の一次側（スラリー循環ライン）における、配管（SUS316L）とフランジの溶接部であった。
- ステージ1においては、系統を流れる水は中性であり、塩化物イオンも含まれることから、配管腐食が発生しうる環境であり、配管の溶接部にすきま腐食が発生した可能性がある。

【C系】ALPS クロスフローフィルタ2C二次側出口配管

- 腐食孔が確認されたのは、既設ALPS 前処理ステージ1（鉄共沈処理設備）の二次側（ろ過側）における、配管（SUS316L）とフランジの溶接部であった。
- A系と同様に、既設ALPS 前処理ステージ1の腐食環境において、配管の溶接部にすきま腐食が発生した可能性がある。

復旧方針

■ 応急処置

- 当該配管については交換の計画を進めているが、製作に時間を要することから、早期運転再開を目的に、A系C系ともに、配管内面の腐食状況を確認した上で、ペロメタルによる補修を行う。
- 補修後、配管据付前には耐圧試験（最高使用圧力の1.5倍）を行い、漏えいの無いことを確認する。
運転再開時期：A系 9月11日（金） C系 9月14日（月）

■ 配管交換

- 同一仕様の配管を新規製作し、交換を実施する。
実施時期：A系C系ともに2021年3月目途

■ 今後の対応

- 配管交換実施後、取り外した配管について断面観察等により腐食孔発生原因の調査を行い、恒久対策を検討する。

建屋内における残水等の状況について

No.	号機	建屋	対象エリア	区分	区分の判断日※1	運用目標値／基準値(mm)	測定頻度	今回			1回前			2回前			最終排水実績	排水計画	床面(mm)	水位計の有無	水位調整不可能予定時期	備考	
								確認日	水位	1回前との水位差(mm)	確認日	水位	2回前との水位差(mm)	確認日	水位	3回前との水位差(mm)							
1	1号機	T/B	電気マンホールNo.1	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 3,023	1回/月	2020/8/3	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/6	測定下限値以下	-	2019/10/28	-	T.P. 1,743	無	完了済	大雨警報発報時に、マンホール上部に水たまりや流入経路は目視にて確認できなかった。	
			電気マンホールNo.2	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 2,293	1回/月	2020/8/3	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/6	測定下限値以下	-	2019/10/28	-	T.P. 1,743	無	完了済	大雨警報発報時に、マンホール上部に水たまりや流入経路は目視にて確認できなかった。	
			主油タンク室	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 3,463	1回/月	2020/8/3	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/6	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 3,443	無	完了済		
			復水脱塩装置樹脂貯蔵タンク室	排水完了エリア	2017/7/27	T.P. 2,063	1回/3ヶ月	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/5/11	測定下限値以下	-	2020/1/30	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 2,043	無	完了済		
			ハウスボイラ室	排水完了エリア	2017/7/11	T.P. 2,250	1回/週	2020/8/3	T.P. 1,023	80	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/6	測定下限値以下	-	2019/12/2	-	T.P. 943	有(露出)	完了済	降雨の影響と推定される水位上昇。傾向を監視するため、測定頻度を1回/週に変更する。	
			ディーゼル発電機(B)室	排水完了エリア	2017/7/19	T.P. 1,926	1回/週	2020/8/3	T.P. 623	80	2020/7/15	測定下限値以下	-80	2020/7/9	T.P. 623	0	2020/7/15	-	T.P. 543	有(露出)	完了済	降雨の影響と推定される水位上昇。傾向を監視するため、測定頻度を1回/週に変更する。	
			床ドレンサンブ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	2020/8/6	T.P. -223	-	2020/7/10	T.P. -473	-	2020/6/12	T.P. -454	-	-	-	-	有	完了済	
			機器ドレンサンブ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
			復水ポンプ配管トレンチ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	2020/8/6	T.P. -132	-	2020/7/10	T.P. -173	-	2020/6/12	T.P. -83	-	-	-	T.P. -857	有	完了済	水位は仮設水位計にて計測
			復水ポンプピット(A)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
復水ポンプピット(B)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済				
復水ポンプピット(C)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済				
給水加熱器ドレンポンプピット(A)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済				
給水加熱器ドレンポンプピット(B)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済				
11	2号機	Rw/B	LDT室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/3	T.P. 4	0	2020/7/22	T.P. 4	-20	2020/7/16	T.P. 24	0	-	T.P. -36	有(露出)	完了済	水位が安定しているため、測定周期を1回/週→1回/月に戻す		
FSST室			排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/3	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/6	測定下限値以下	-	-	-	T.P. -36	有(露出)	完了済			
OGST室			排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/3	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/6	測定下限値以下	-	-	-	T.P. -36	有(露出)	完了済			
床ドレンサンブ(A)			床面以下に貯留する残水	2019/4/22	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済		
床ドレンサンブ(B)			床面以下に貯留する残水	2019/4/22	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済		
高電導度廃液サンブ			床面以下に貯留する残水	2019/4/22	-	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済		
17	2号機	T/B	低圧復水ポンプエリア	建屋貯留水	-	-	-	2020/8/6	T.P. -1,314 ※4	-	2020/7/10	T.P. -1,301 ※4	-	2020/6/12	T.P. -1,556 ※4	-	-	T.P. -1,752	無	-	復水器エリアと連通性有※2		
18			C/B(バッテリー室)	排水完了エリア	2018/1/31	T.P. 1,599	1回/月	2020/8/4	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	2018/1/26	-	T.P. 448	無	完了済		
19			C/B(電気品室)	排水完了エリア	2018/1/18	T.P. 1,664	1回/月	2020/8/4	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	2018/1/15	-	T.P. 448	有(露出)	完了済		
20			パッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/26	T.P. 1,668	1回/月	2020/8/4	T.P. 618	0	2020/7/16	T.P. 618	0	2020/7/9	T.P. 618	T.P. 0	2020/7/1	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	水位が安定しているため、測定周期を1回/週→1回/月に戻す	
21			スイッチギア室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/4	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済		
22			南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/4	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済		
23			CD室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/4	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済		
24			消火ポンプ室(水位計設置箇所)	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/週	2020/8/4	T.P. 567	119	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	2020/6/30	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	降雨の影響と推定される水位上昇。傾向を監視するため、測定頻度を1回/週に変更する。	
25			消火ポンプ室(ポンプ設置箇所)	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/4	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	2020/6/29	-	T.P. 448	無	完了済		
26			ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/4	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/7/7	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済		
27	3号機	T/B	電気油圧式制御装置室	建屋貯留水	-	-	-	2018/1/31	測定下限値以下	-	2018/1/31	測定下限値以下	-	-	-	-	-	T.P. 448	無	-	復水器エリアと連通性有※2 床面露出。中間地下階のため、再冠水の可能性は低い。		
28			T/B地下階北東廊下	建屋貯留水	-	-	-	2017/12/25	測定下限値以下	-	2017/12/25	測定下限値以下	-	-	-	-	-	T.P. 463	無	-	復水器エリアと連通性有※2 床面露出。中間地下階のため、再冠水の可能性は低い。 水位が安定しているため、測定周期を1回/週→1回/月に戻す		
29			南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/5	T.P. 513	0	2020/7/16	T.P. 513	0	2020/7/10	T.P. 513	0	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済		
30			CD室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/5	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/8	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済		
31			ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/5	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/8	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済		
32			ディーゼル発電機(B)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/5	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/8	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済		
33			電気油圧式制御装置室	排水完了エリア	2018/2/2	T.P. 1,725	1回/月	2020/8/5	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/7/8	測定下限値以下	-	2019/6/14	-	T.P. 463	無	完了済	11/7:10mm程水位低下が確認されたが、誤差によるものと判断した。	
34			消火ポンプ室	排水完了エリア	2018/3/20	T.P. 1,644	1回/月	2020/8/5	T.P. 553	0	2020/7/29	T.P. 553	0	2020/7/22	T.P. 553	30	2020/3/4	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	水位が安定しているため、測定周期を1回/週→1回/月に戻す	
35			パッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/20	T.P. 1,665	1回/月	2020/8/5	T.P. 493	0	2020/7/16	T.P. 493	0	2020/7/9	T.P. 493	0	2019/11/19	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	水位が安定しているため、測定周期を1回/週→1回/月に戻す	
36			C/Bエリア	建屋貯留水	-	-	1回/日	2020/7/10	T.P. -1,569	-	2020/7/10	T.P. -1,534	-	2020/6/12	T.P. -1,557	-	2020/3/5	-	T.P. -1,737	有	完了済	継続した水位上昇を確認。 継続して排水する措置を実施中。	
37	4号機	T/B	C/B(バッテリー室)	排水完了エリア	2018/2/15	T.P. 1,683	1回/月	2020/8/6	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/6/12	測定下限値以下	-	2018/1/24	-	T.P. 461	有(露出)	完了済		
38			C/B(電気品室)	排水完了エリア	2018/2/15	T.P. 1,636	1回/月	2020/8/6	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/6/12	測定下限値以下	-	2018/10/23	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	10/23に移設した床面が露出したものの、翌日の水位測定で水位が元に戻っていた。	
39			パッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/23	T.P. 1,622	1回/月	2020/8/6	T.P. 531	0	2020/7/22	T.P. 531	10	2020/7/16	T.P. 521	0	2018/10/30	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	水位が安定しているため、測定周期を1回/週→1回/月に戻す	
40			M/Cエリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/6	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/6/12	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 461	有(露出)	完了済		
41			南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/6	測定下限値以下	-	2020/7/10	測定下限値以下	-	2020/6/12	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 461	有(露出)	完了済		
42			ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1,400	1回/月	2020/8/6	測定下限値以下	-	2020/7/9	測定下限値以下	-	2020/6/12	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 461	有(露出)	完了済		
42	電気油圧式制御装置室	建屋貯留水	-	-	-	2018/1/12	測定下限値以下	-	2018/1/12	測定下限値以下	-	-	-	-	-	-	T.P. 461	無	-	復水器エリアと連通性有※2 床面露出。中間地下階のため、再冠水の可能性は低い。			

※1:現状の滞留水水位より床面が低く、将来的な水位低下によって孤立すると想定されるエリアについては、運転上の制限(建屋滞留水<サブドレン水位)を満足する時期で調査を行い、区分けするように計画する。

※2:2018/3/8,2018/4/24 面談資料参照

※3:1号機タービン建屋は、現在、床ドレンサンブ内で水位管理を行っているため、T.P.443として管理(2018/4/6面談資料参照)

※4:連通のある復水器エリアの水位を記載

2020/8/6 0:00 時点の各建屋水位

建屋	1号機			2号機			3号機			4号機		
	R/B	Rw/B	T/B※5	R/B	Rw/B	T/B	R/B	Rw/B	T/B	R/B	Rw/B	T/B
滞留水の水位	T.P. -1,835	T.P. 94	除去完了	T.P. -2,016	T.P. -1,342	T.P. -1,314	T.P. -1,915	T.P. -1,456	T.P. -1,213	T.P. -3,223	T.P. -1,517	T.P. -1,464
周辺サブドレン設定値	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350	T.P. -350

※5:1号機T/Bの最下階の床レベルはT.P.443mm

各建屋地下エリアの滞留水貯留状況

2020/8/28
東京電力ホールディングス株式会社

水位安定エリア等については線量測定が実施出来た場合、測定結果を記載している。

※1: 1階床面より3m程度挿入した箇所での測定

※2: 作業エリアである1階床面で測定

※3: 孤立すると予想したエリアだが連通が確認されたため、建屋に貯留する滞留水のままと判断したエリア

- : 排水完了エリア
- : 露出したエリア※3
- : 孤立予定箇所
- : 床面以下に貯留する残水

